

わが家の「緊急・救急情報」防災メモ

非常時・緊急時に活用してもらいたいわが家の情報です。災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関などに情報を提供します。連絡してほしい方などの情報を記入しましょう。

わが家の避難先	洪水時	地震時
家族が離れているときの集合場所	洪水時	地震時

氏名	連絡先	会社・学校	血液型	かかりつけ医・常備薬

【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

緊急ダイヤル

消防へ火事・救急・救助の連絡

119

警察へ事件・事故の連絡

110

Net119
緊急通報システム

Net119緊急通報システムは、音声による119番通報が困難な聴覚・言語機能障がい者が円滑に消防への通報を行えるようにするシステムです。利用に当たっては、事前に登録が必要です。

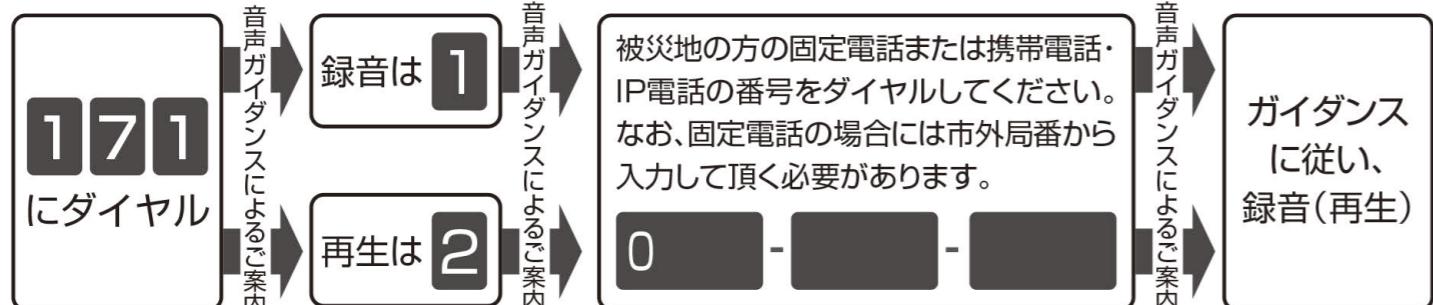
千代田町役場の福祉担当の窓口、または館林地区消防組合へお問い合わせください。



あなたの無事を伝えましょう

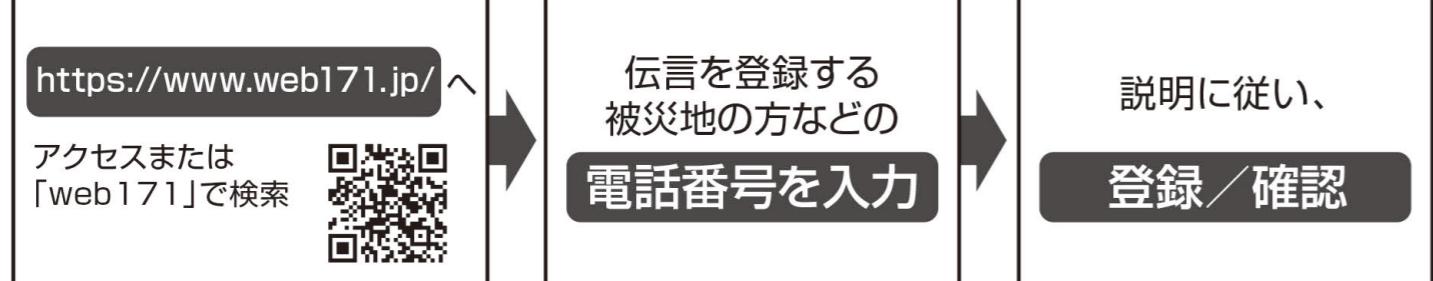
体験利用日:「毎月1日および15日」、「正月三が日」、「防災週間」、「防災とボランティア週間」

171
災害用伝言
ダイヤル
電話を利用して被災地の方の安否情報を確認する「声の伝言板」です。



災害用伝言板(パソコン・スマートフォン用)

web 171
災害用伝言板
インターネットを利用して被災地の方の安否情報を確認する「web伝言板」です。



発行 千代田町役場 総務課

TEL 0276-86-2112 FAX 0276-86-4591

「この地図の作成にあたっては、千代田町長の承認を得て、同町発行の2,500分の1の地形図を使用し、調製したものである。」
「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 5JHs 167-027号」

※使用ピクトグラム… JIS Z8210 [洪水/内水氾濫][大規模な火事] [広域避難場所]

令和6年3月発行

保存版

自の届く場所に
保管してください

千代田町
Chiyoda Town

防災 ハザードマップ

Disaster Prevention Hazard Map

さまざまな災害に備えましょう



洪水 / 内水氾濫



大規模な火事



地震

～大切な命を守るために～



はじめに

近年、全国各地で大雨や大地震などの自然災害が発生し、多くの尊い命や財産が失われており、「令和元年東日本台風」においては、本町で初めて避難指示を発令する事態となりました。

災害はいつ起こるかわかりません。町といたしましても、災害に備えるため、備蓄品の確保や避難所の整備などの防災対策を進めておりますが、災害において行政のできる支援には限界があります。

災害における被害を最小限におさえるためには、自分の身は自分で守る(自助)と地域で助けあうこと(共助)が重要となってまいります。本防災ハザードマップを目にしていただき、適切な避難行動をとるためにお役立てくださいますようお願い申し上げます。



町長 高橋 純一

もくじ

はじめに	1	自宅にとどまった場合の備え	16
5段階の警戒レベル	2	災害の「備え」チェックリスト	17
避難行動判定フロー	3	過去の災害	18
マイ・タイムライン	4	洪水浸水想定区域図(想定最大)	19・20
災害時の情報伝達	5	洪水浸水想定区域図(浸水継続時間)	21・22
地域ぐるみで防災に取り組もう	6	広域避難地図	23
風水害対策	7・8	避難の方法	24
揺れやすさマップ	9・10	避難所一覧	25・26
地震対策	11・12	ハザード情報について	27
火災対策	13	全体索引図	28
雪害対策	14	詳細図	29~42
竜巻・雷対策	15	わが家の「緊急・救急情報」防災メモ	裏表紙

本書の活用方法について

- 住んでいる場所と予想される危険箇所を地図上で確認しましょう
- 避難先を確認しましょう
- 避難経路を考えてみましょう
- 家族や周辺住民と情報を共有しましょう



家族みんなで防災会議

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというときにあわてず行動できるよう、本書を活用いただき、家族で普段から話し合っておきましょう。

- 家の中で一番安全な場所
- 家族一人ひとりの役割分担(安否確認、非常時持出品・備蓄品のチェック)
- 避難先、避難経路(自宅と避難先を確認)
- 自宅付近の災害リスク、危険箇所の確認
- 災害が起こったときの身の守り方
- 家族が離ればなれでいたときの連絡手段、集合場所
- 要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦など)のサポートと避難方法



5段階の警戒レベル

避難情報など (警戒レベル)			河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル 状況	住民がとるべき行動	避難情報	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)
5 災害発生 または切迫	命の危険 直ちに 安全確保！	緊急安全 確保	5 相当	氾濫発生 情報 大雨 特別警報 (土砂災害)
4 災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 相当	氾濫危険 情報 土砂災害 警戒情報
3 災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等 避難	3 相当	氾濫警戒 情報 洪水警報
2 気象状況 悪化	自らの避難 行動を確認	—	2 相当	氾濫注意 情報 大雨注意報 洪水注意報
1 今後気象状況 悪化のおそれ	災害への 心構えを 高める	—	1 相当	早期注意 情報

市町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報など(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

避難に時間のかかる高齢者や
障がいのある人は、

警戒レベル4 避難指示
で危険な場所から全員避難
しましょう。



警戒レベル4 避難指示
で危険な場所から全員避難
しましょう。



警戒レベル5 緊急安全確保
は、すでに安全な避難ができ
ず命が危険な状況です。

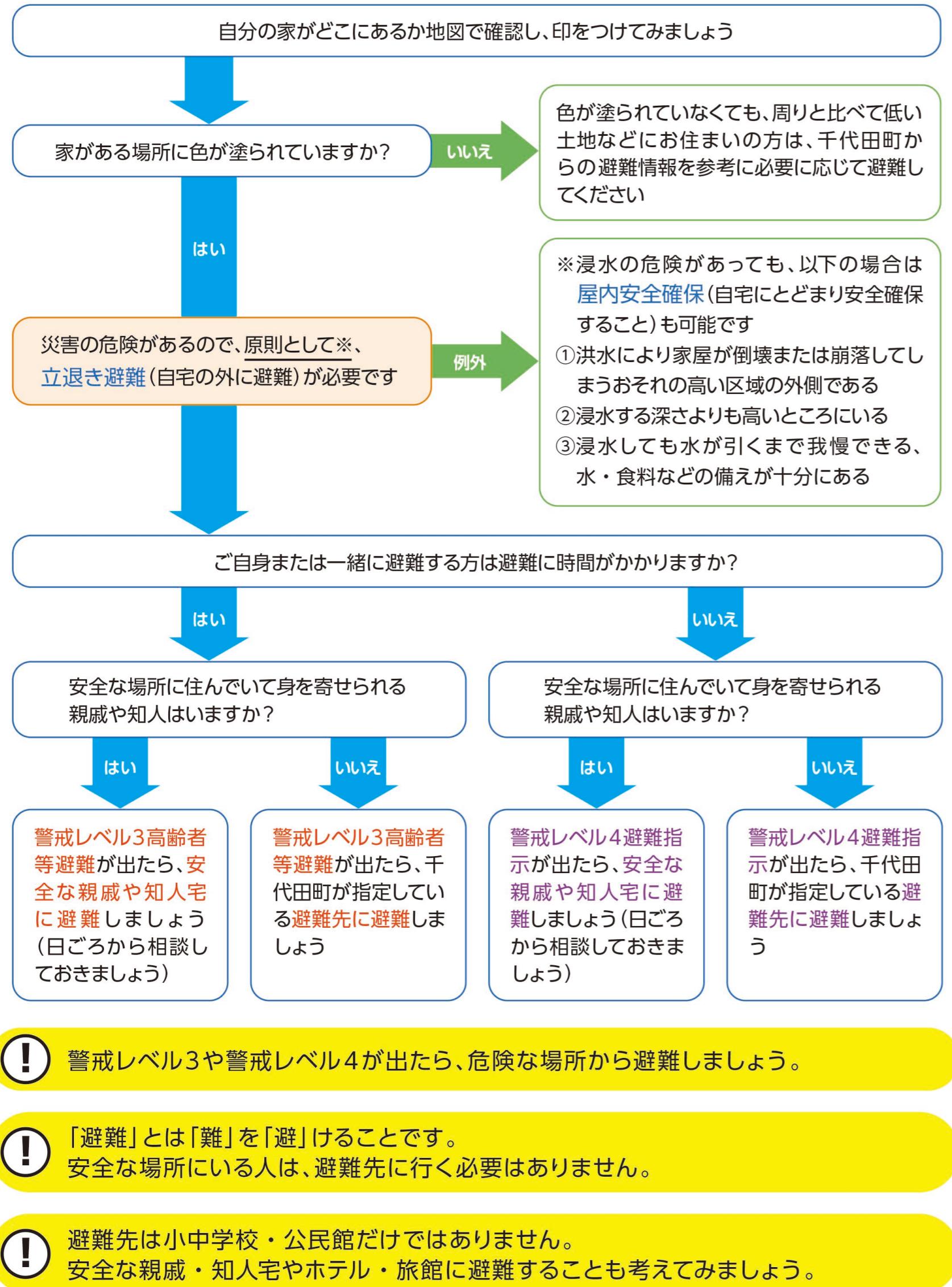
**自宅の上の階や崖から離れた
部屋に移動**しましょう。



避難行動判定フロー

台風・豪雨時に備えて地図と一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。

あなたがとるべき避難行動は？ 必ず取り組みましょう



マイ・タイムライン

マイ・タイムラインとは、住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇するときに、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え方を守る避難行動のための一助とするものです。千代田町が作成・公表した洪水ハザードマップを用いて、リスクを知り、どのような避難行動が必要か、また、どういったタイミングで避難することがよいのか考えるものです。（このページでは、台風による河川の氾濫を想定しています）

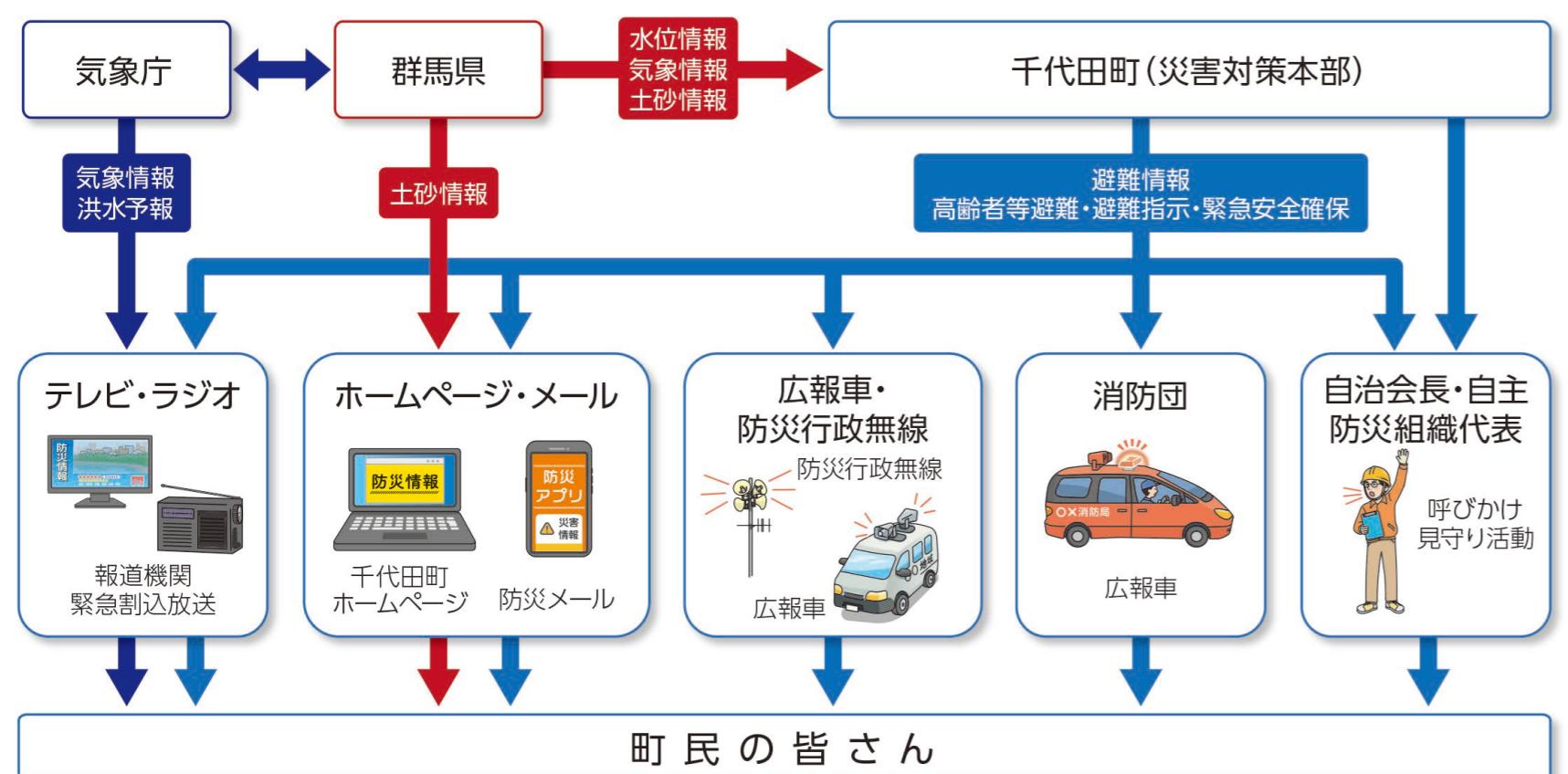
災害発生までの時間	気象情報 避難指示など	〈例〉主な備えと行動	わが家の行動計画 (左の例を参考に書いてみましょう)
5日前	台風に関する気象情報 台風が発生 台風が近づいて、雨や風がだんだん強くなる	<ul style="list-style-type: none"> ○台風の今後を調べ始める ○本書などを見て避難先、避難手段を確認 ○家の周りに風で飛ばされるようなものはないか確認 ○テレビ、インターネット、携帯メールなどで雨や川の様子に注意 ○避難するときに持っていくものを準備する ○家族と連絡を取り合う 	
～半日前	大雨注意報・洪水注意報 氾濫注意水位到達 雨が集まって、川の水がだんだん増える 	<ul style="list-style-type: none"> ○住んでいるところと上流の雨量を調べ始める ○本書などで避難先、避難手段を再確認 ○川の水位を調べ始める ○避難先が開設しているか、インターネットで確認 ○避難しやすい服装に着替える ○携帯電話、スマートフォンを充電する 	
5時間前	避難判断水位到達 高齢者等避難 激しい雨で、川の水がどんどん増えて、河川敷にも水が流れる 	<ul style="list-style-type: none"> ○携帯メールなどで高齢者等避難を受信 ○高齢者等は避難開始 	
3時間前	氾濫危険水位到達 避難指示 川の水があふれそうになり、いつ氾濫してもおかしくない状態 	<ul style="list-style-type: none"> ○携帯メールなどで避難指示を受信 ○安全なところへ移動を始める 	
0時間	氾濫が発生 緊急安全確保 川の水が氾濫 	<ul style="list-style-type: none"> ○命の危険 直ちに安全確保 	全員避難完了！！

* 気象庁が発表する大雨注意報などの発表時間は、イメージで記載しています。
避難指示などのタイミングは状況によって異なります。千代田町からの発信情報に注意してください。

災害時の情報伝達

災害への備え

住民への伝達方法



情報を集めましょう

群馬県の防災情報

テレビ（データ放送）

- ①リモコンのdボタンを押す
- ②「地域の防災・生活情報」を選択する



気象庁

- 気象警報、注意報、大雨危険度、キキフル（危険度分布）、気象情報、地震情報など



群馬県防災ポータルサイト

- 避難情報、避難所情報など



かわみるぐんま（群馬県河川課）

- 河川水位、雨量、ダム、河川ライブカメラの情報など



東京電力停電情報

- サービスエリア内で発生している停電情報



千代田町の防災情報

「千代田町安全安心メール」は、ケーブルテレビ株式会社のシステムを利用し、町民の皆さんを犯罪から守るために、不審者情報、振り込め詐欺や還付金詐欺等の防犯情報をはじめ、地域の安全に関する情報を登録者の携帯電話等へメールを配信するサービスです。

また、災害時には災害対策本部からの地震・台風・水害などの災害情報、行方不明者などの緊急情報等もお知らせし、犯罪防止や安全確保に努めてまいります。さまざまな情報を共有することで、隣近所、地域、そして行政が力を合わせ、防犯・防災に取り組んでいきましょう。

●配信内容

町内および近隣市町で起こった下記の情報を、ご登録いただいたメールアドレスに配信します。

○防災情報（随時配信） 大きな地震・台風等の災害時の場合は、災害対策本部から配信します。

○緊急情報（随時配信） 行方不明者の情報等、緊急時の情報を配信します。

○その他の情報（随時配信） 防犯・防災情報のほか、必要な情報をお知らせします。

●登録用ホームページアドレス



<http://cc9.easypocket.jp/> (スマートフォン・パソコン)



<http://cc9.easypocket.jp/k/> (携帯電話)

地域ぐるみで防災に取り組もう

災害への備え

日ごろから、地域の中で防災について考えましょう

災害から身を守るために行政による「公助」の取り組みと連携し、自分の身は自分で守る「自助」や、近所の人等と助け合う「共助」による取り組みを進めることができます。

自助の限界

1人でできることには限度があります

共助の力

公助の限界

行政がすぐに助けてくれるとは限りません

水害・土砂災害など、どのようなリスクがあるのか、地域の中で共有し、家族や地域の人達の命や財産をどのように守るのかしっかり考え、対応策を作成しておくことが大切です。地域の中で議論することが、いざというときに助け合う第一歩になるのです。

自主防災組織の活動

平常時

自主防災組織は、平常時においては防災訓練の実施、防災知識の啓発、防災巡回、資機材の共同購入等を行っています。

防災訓練の実施



災害時

災害時においては、初期消火、住民等の避難誘導、負傷者等の救出・救護、情報の収集・伝達、給食・給水、災害危険箇所の巡回等を行うこととしています。

隣近所の安否確認



避難誘導



情報収集・伝達



風水害対策

大雨情報をキャッチ！

こんなときの
わが家の安全対策

**大雨
特別警報**

大雨により重大な災害の起こるおそれがあると予想される場合に発表する予報

大雨警報

大雨により重大な災害の起こるおそれがあると予想される場合に発表する予報

大雨注意報

大雨により災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表する予報

**記録的短時間
大雨情報**

大雨警報が発表されているときに、数年に1回程度発生する激しい短時間の大雨を観測、または解析したことを発表する情報

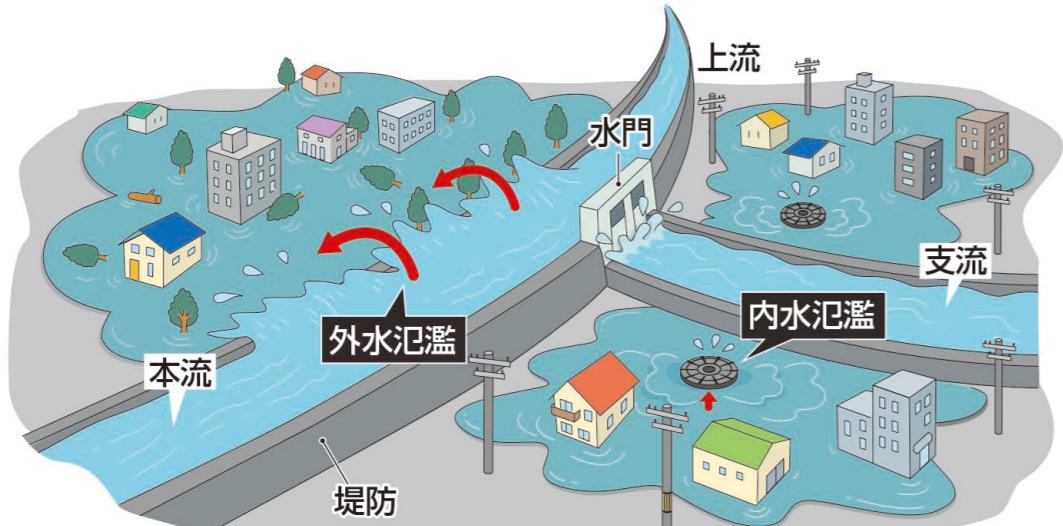
**顕著な大雨に
関する情報**

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報

氾濫の種類

外水氾濫

河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破堤するなどして堤防から水があふれ出す。



内水氾濫

下水道・支川等の雨水排水能力を上回り浸水する。あるいは河川水位の上昇により、下水道・支川等から河川へ放流できず浸水する。

集中豪雨

集中豪雨は、積乱雲(雷雲、入道雲ともいわれる)が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより起こるもので、狭い範囲に数時間にわたって強く降り、100mmから数百mmの雨量をもたらします。非常に激しい雨が、何時にも同じ場所に降り続けば、重大な土砂災害や洪水等を引き起こします。

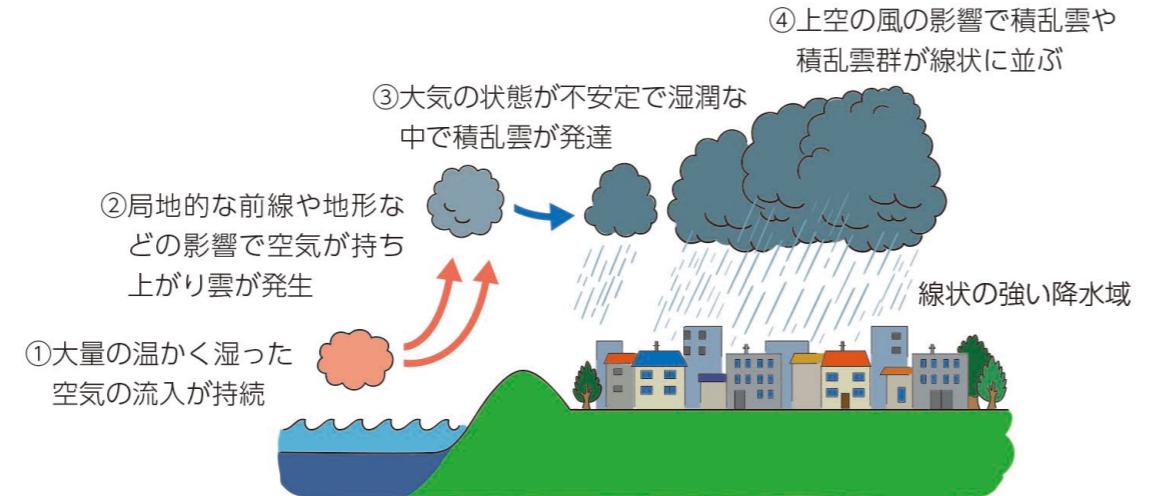


アンダーパス
(地下道)
にも注意！

集中豪雨等により河川や下水の排水処理能力を超えた雨水は低い場所に集まり、短時間のうちに浸水します。特に地下街や地下室、アンダーパス等は、雨水の流入で水没する危険があります。たとえ近くに川がなくても「水害」への注意が必要です。

線状降水帯

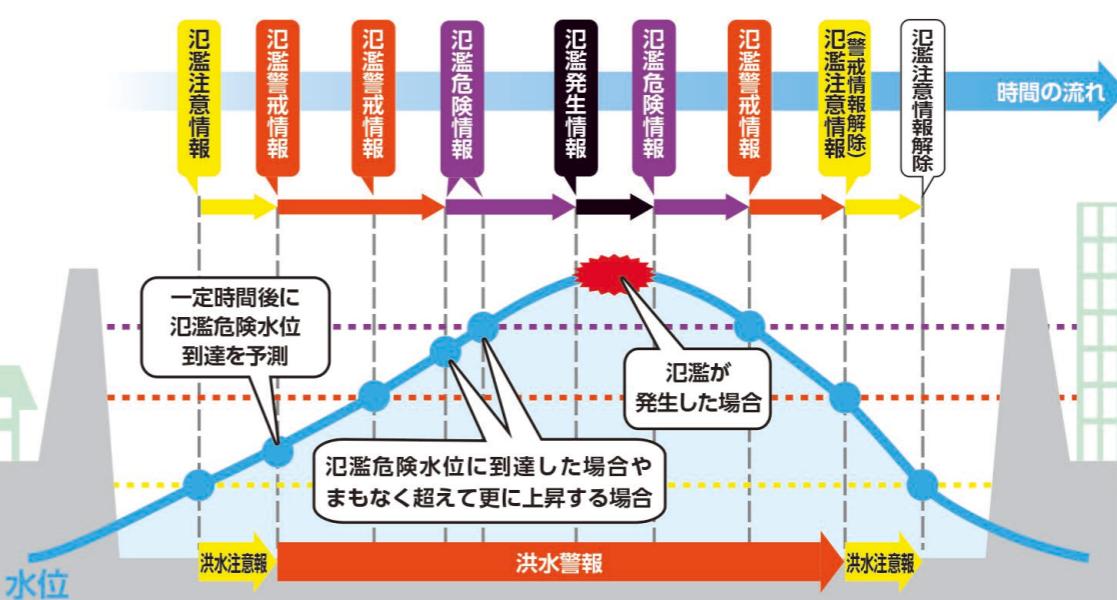
次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水をともなう雨域を線状降水帯といいます。



風水害対策

河川の危険水位と洪水予報

河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、河川管理者と気象庁から洪水予報が発表されます。自治体はこの情報をもとにして、避難に関する情報を発令します。



河川名	利根川
観測所	八斗島水位観測所
氾濫危険水位(レベル4水位)	4.1m
避難判断水位(レベル3水位)	3.1m
氾濫注意水位(レベル2水位)	1.9m
水防団待機水位	0.8m

雨の強さと降り方

[雨量の単位は1時間に降る雨量(mm)]

10~20mm未満

やや強い雨

10~20mm未満

20~30mm未満

強い雨

20~30mm未満

30~50mm未満

激しい雨

30~50mm未満

50~80mm未満

非常に激しい雨

50~80mm未満

80mm以上

猛烈な雨

80mm以上

猛烈な雨

風の強さと吹き方

[風速の単位m/sは、1秒間に進む距離(m)]

10~15m/s未満

やや強い風

10~15m/s未満

15~20m/s未満

強い風

15~20m/s未満

20~30m/s未満

非常に強い風

20~30m/s未満

30m/s以上

猛烈な風

風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない

風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険

何かにつかまっていないと立っていられない。飛来物によって負傷するおそれがある

屋外での行動はきわめて危険

台風の大きさと強さ

台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ

風速15m/s以上の半径

大型(大きい)

500km以上~800km未満

超大型(非常に大きい)

800km以上

強さ

最大風速

強い

33m/s(64ノット)以上~44m/s(85ノット)未満

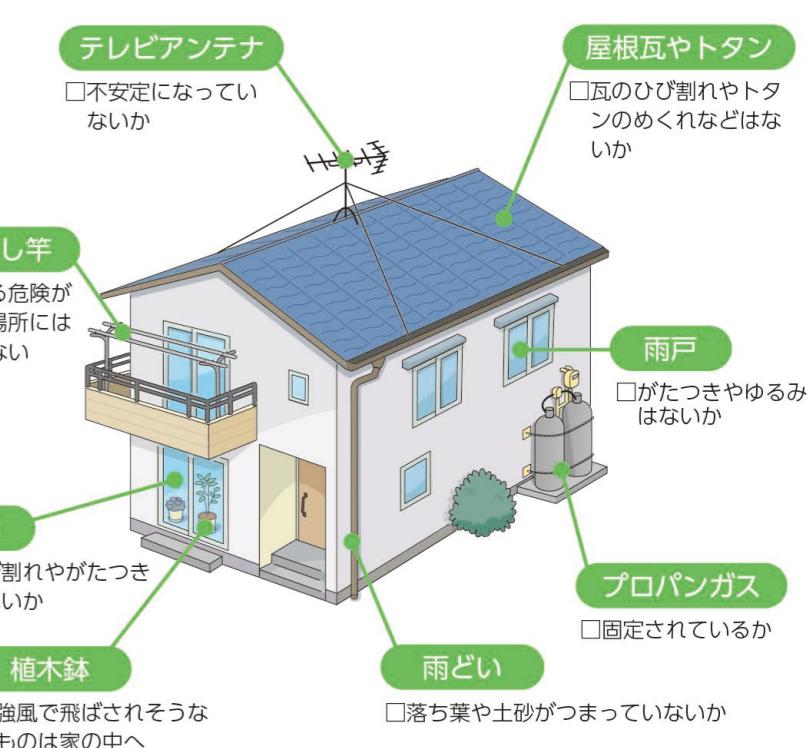
非常に強い

44m/s(85ノット)以上~54m/s(105ノット)未満

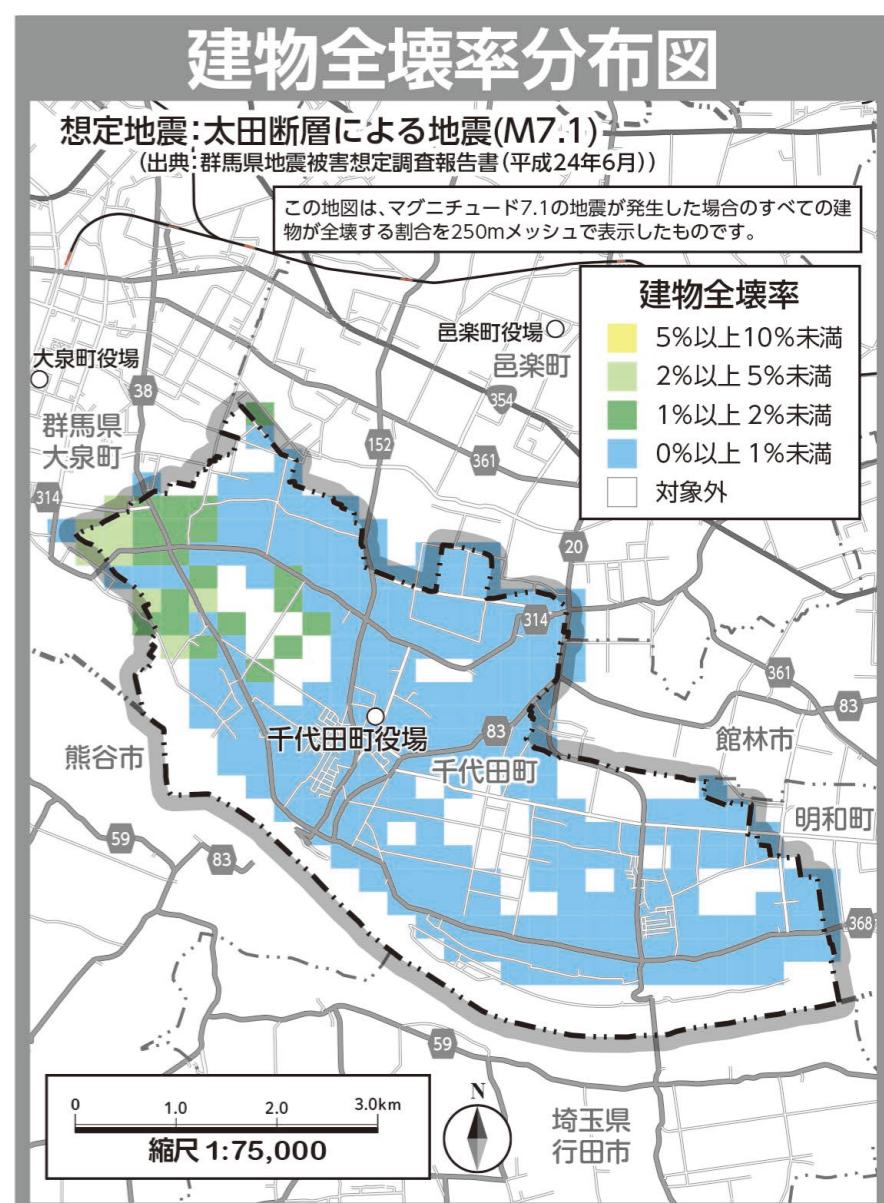
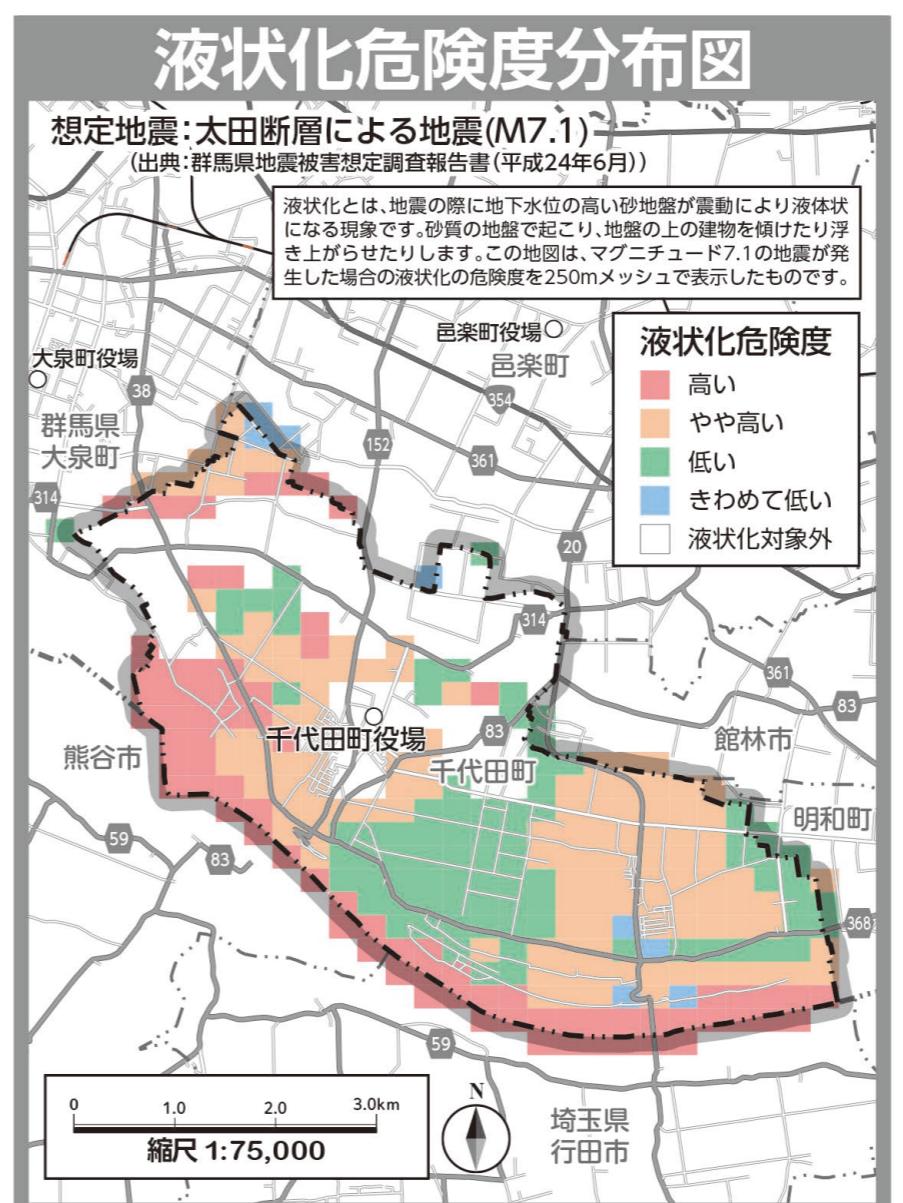
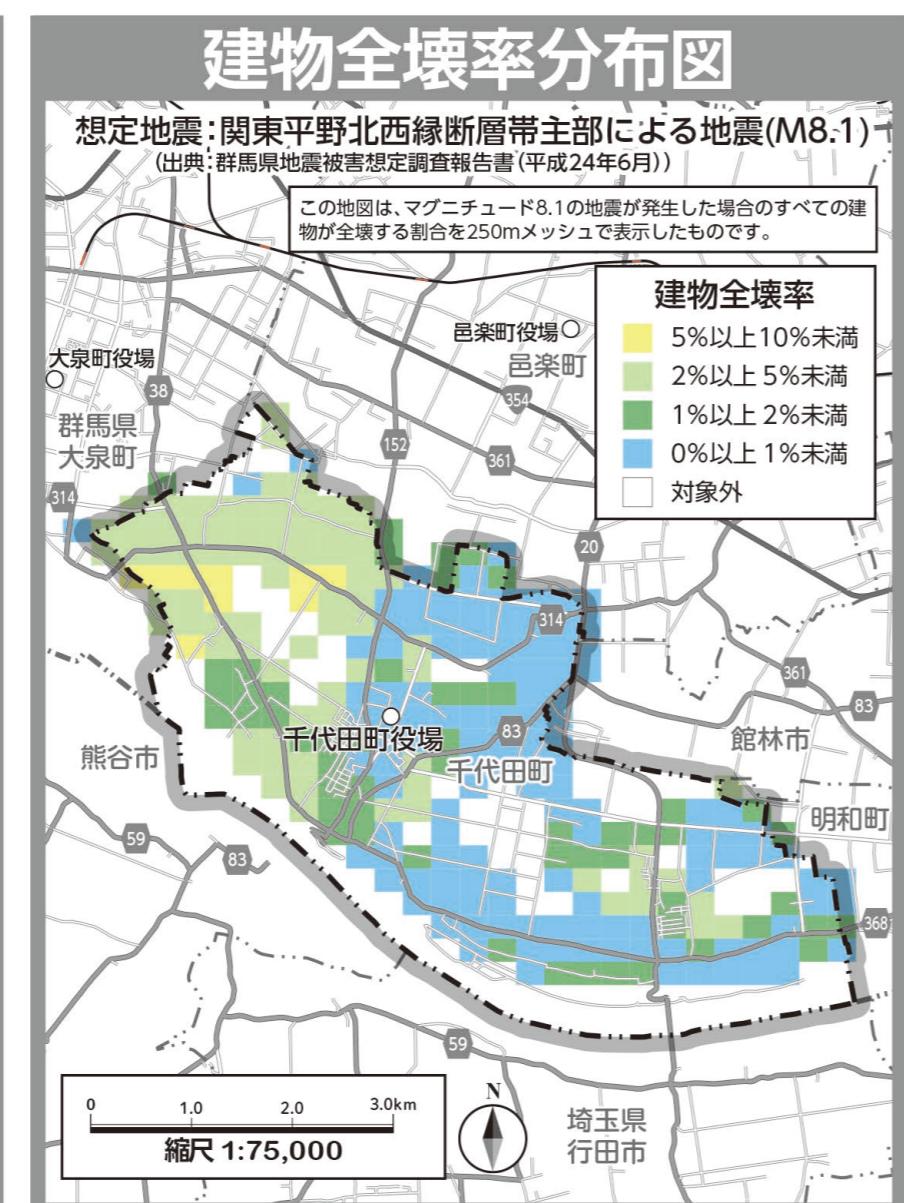
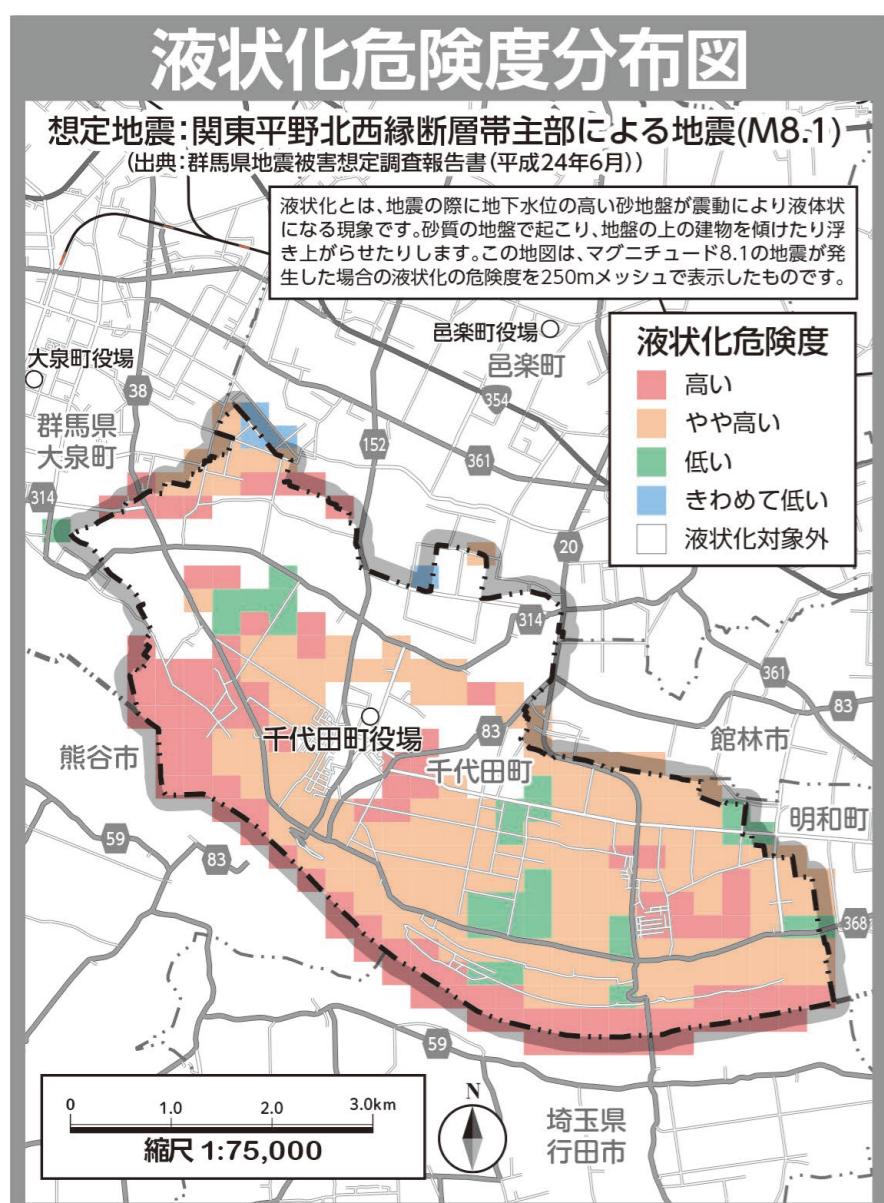
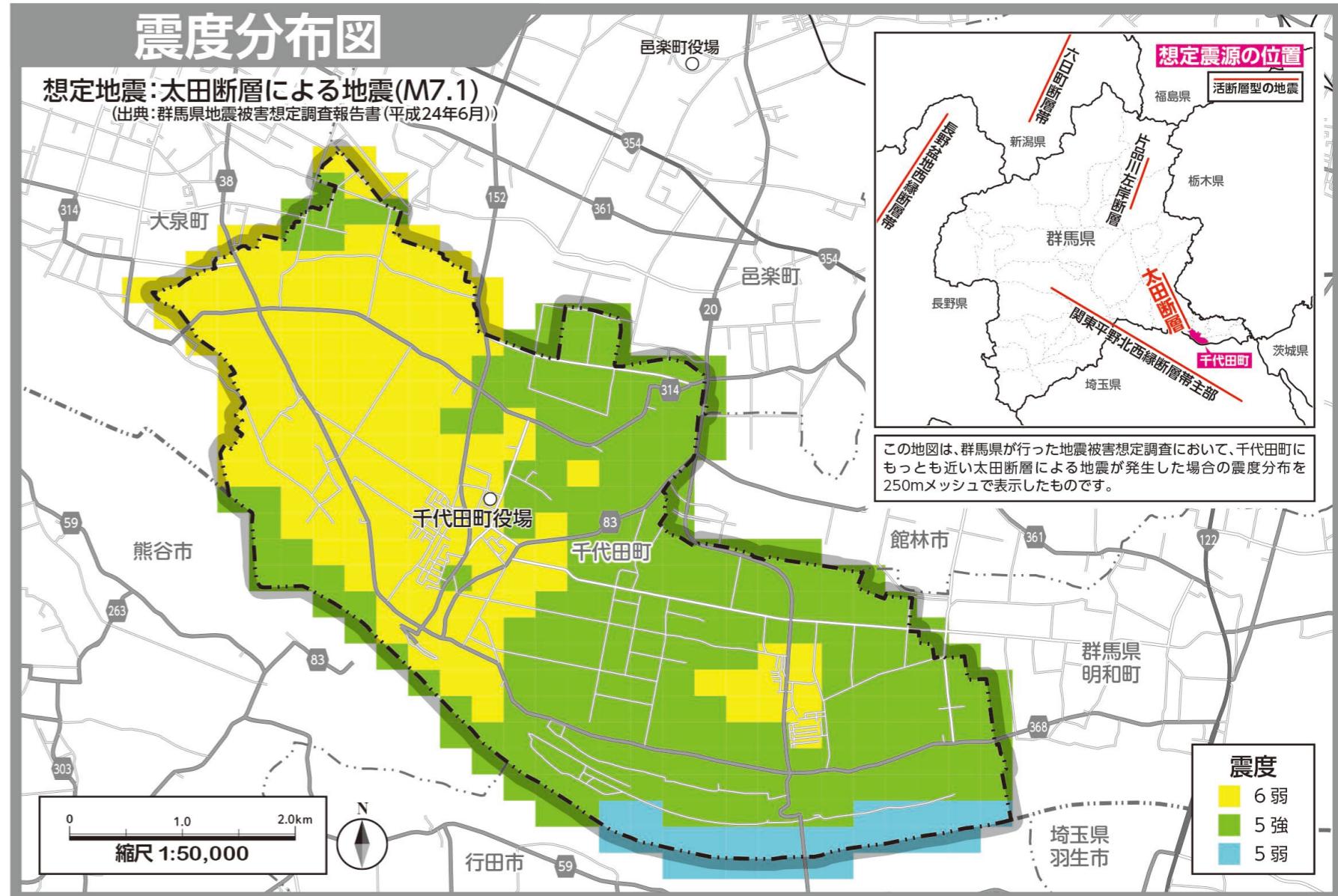
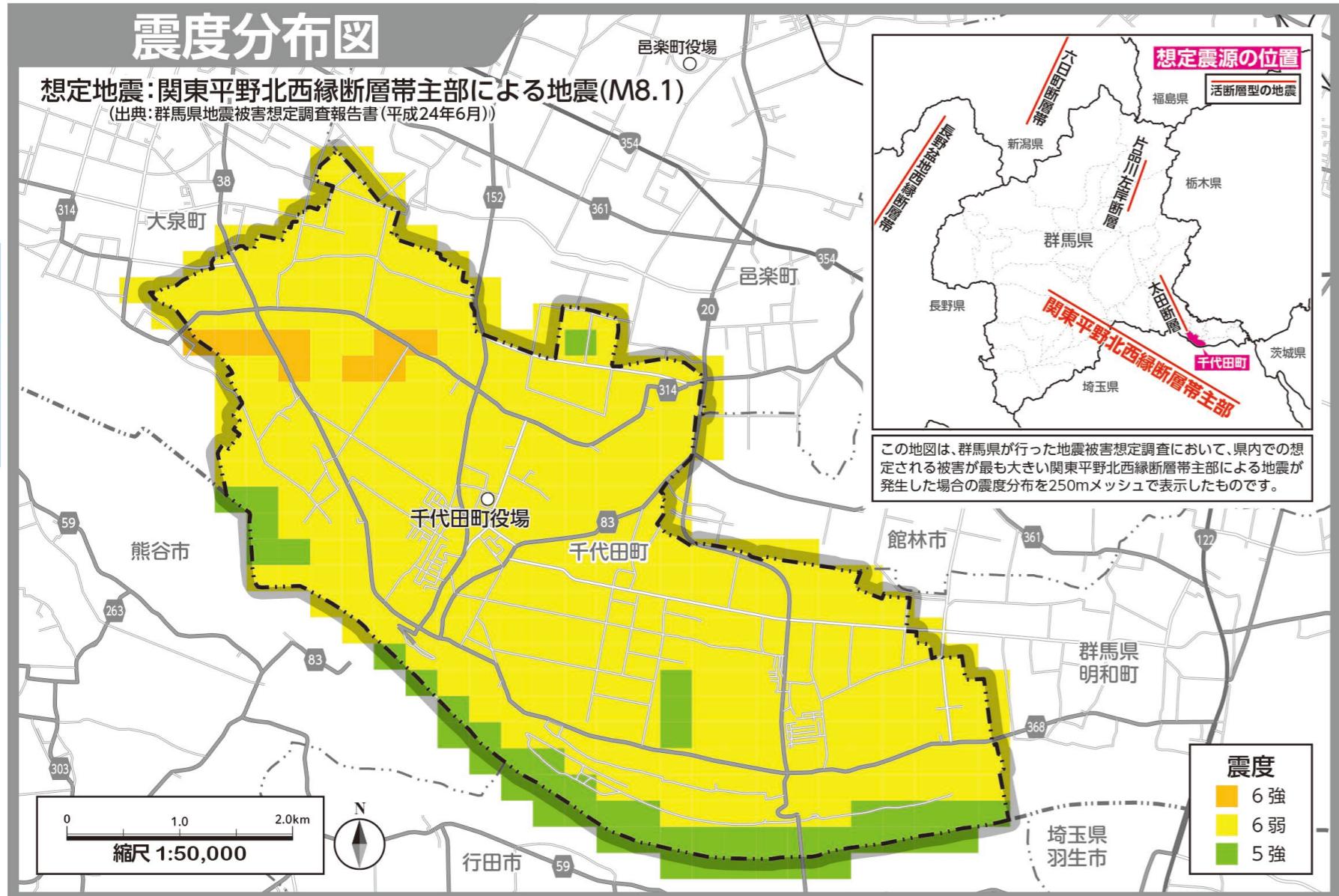
猛烈な

54m/s(105ノット)以上

台風への備えチェック



揺れやすさマップ



地震対策

地震発生時の行動マニュアル

地震発生

((!)) まずは身の安全を確保する



強い揺れ(最大震度5弱以上)が予想される数秒から数十秒前に、テレビやラジオ、防災行政無線やスマートフォンなどで「強い揺れが予想されていることと、予想されている地域」を伝えます。ただし、震源に近い地域では、強い揺れに間に合わないことがあります。



一般住宅

- 身を守るために、丈夫な机の下などに隠れる
- あわてて外に飛び出さない
- 火の始末はすぐやく行う(火元から離れているときは無理に火を消しに行かない)
- 扉を開けて避難路を確保する



路上

- あわてずに施設の係員や従業員などの指示に従う
- つり下がっている照明などの下から退避する



自動車運転中

- 最寄りの階で停止させて、すぐに降りる
- ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れる
- ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる



山や崖付近

- 落石や崖崩れに注意し、できるだけその場から離れる

揺れがおさまったらやること

- まずは周囲を確認し、身の安全を確保する
- あわてて行動すると、転倒した家具類、飛び散ったガラスの破片等でケガをするおそれがある
- 小さな揺れのとき、または揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口を確保する



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ



- 我が家の安全を確認後、近所にも声をかけて安否を確認する



- 電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉める



避難の判断

- デマや噂にまどわされず、テレビ、ラジオ、役場等からの情報に注意し、正しい状況を把握する
- 徒歩で避難する。車は渋滞を引き起こし、消防・救急活動に支障を来すので使用しない
- 消防や警察への緊急連絡を優先するため、電話の使用は控える
- 身の周辺に危険が迫っていると判断した場合は、ためらうことなく避難する

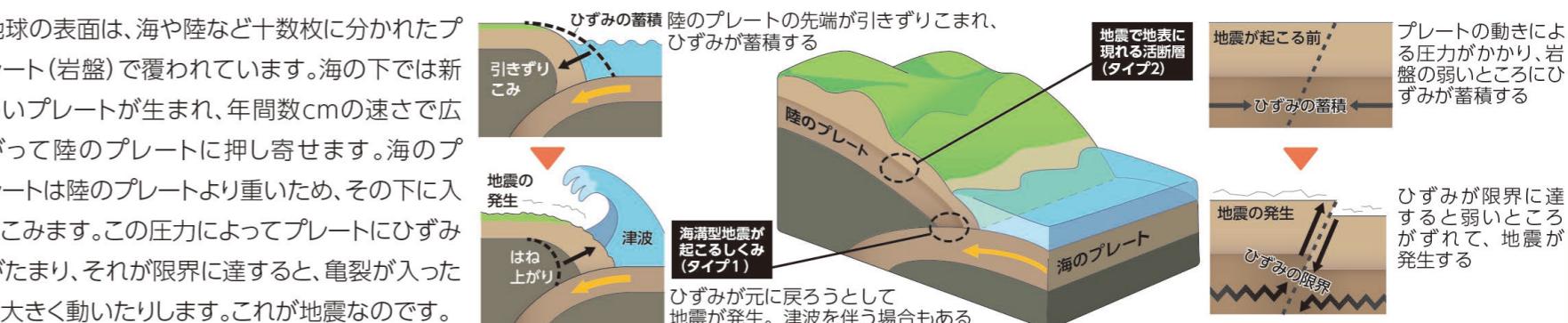
避難の行動、救出・救護活動

- 外に出るときも周囲の確認をする。ガラスや看板等が落ちてくる可能性がある
- 救出活動はできるだけ複数で協力して行う
- 火災報知設備の警報を聞いたときは、状況を確認して、すみやかな行動を心掛ける



地震対策

発生のしくみ



地震によって想定される被害

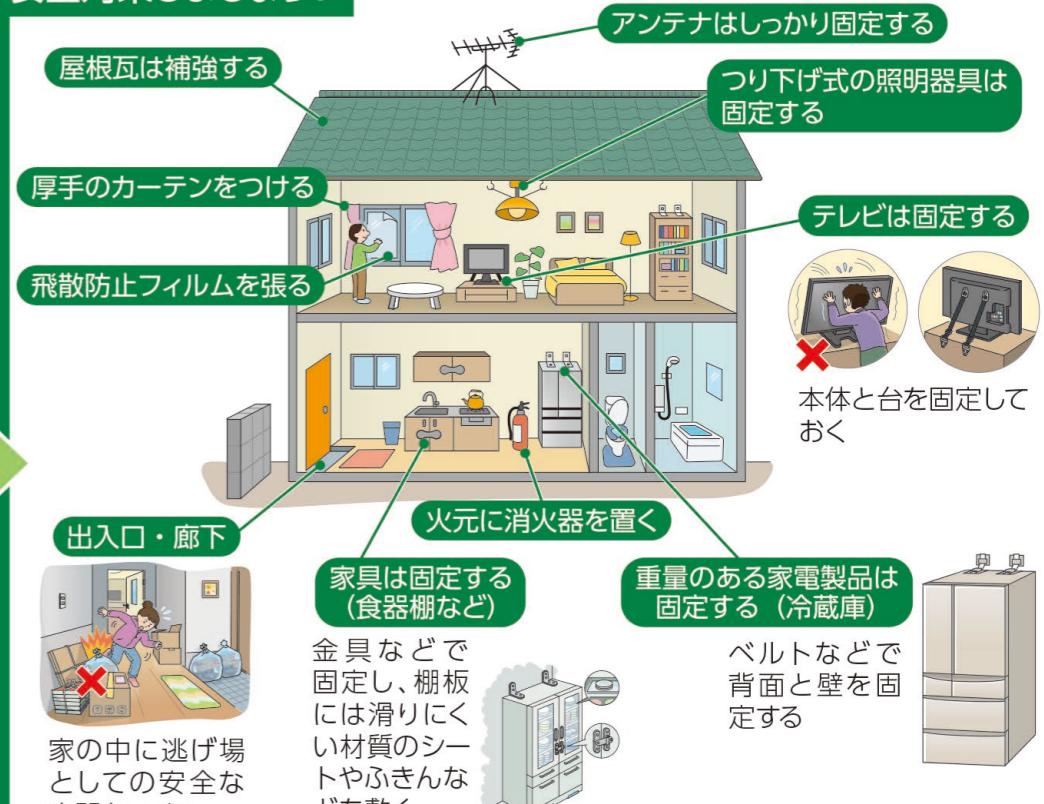
震度4	<ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの人が驚く ○電灯などのつり下げ物は大きく揺れる ○座りの悪い置物が、倒れることがある 		震度6弱	<ul style="list-style-type: none"> ○立っていることが困難になる ○壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある ○耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある 	
震度5弱	<ul style="list-style-type: none"> ○大半の人々が、恐怖を覚え、物につかりたいと感じる ○棚にある食器類や本が落ちることがある ○固定していない家具が移動するがあり、不安定なものは倒れることがある 		震度6強	<ul style="list-style-type: none"> ○はないと動くことができない ○固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる ○耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなる 	
震度5強	<ul style="list-style-type: none"> ○物につからないと歩くことが難しい ○棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる ○補強されていないブロック塀が崩れることがある 		震度7	<ul style="list-style-type: none"> ○耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある ○耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる 	

わが家の安全対策

安全対策していないと…



安全対策しましょう！



火災対策

いのちを守る10のポイント

◆4つの習慣

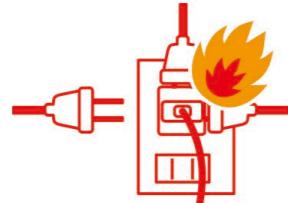


1 寝たばこは絶対にしない、させない

2 ストーブの周りに燃えやすいものを置かない

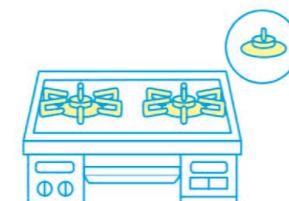


3 コンロを使うときは火のそばを離れない

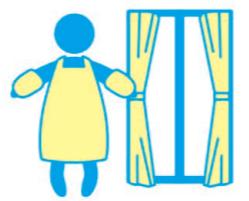


4 コンセントはほこりを清掃し、不必要的プラグは抜く

◆6つの対策



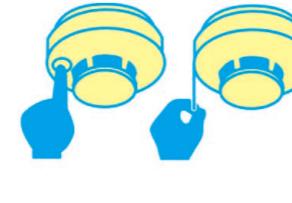
1 火災の発生を防ぐために、ストーブやコンロ等は安全装置のついで機器を使用する



2 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類およびカーテンは、防炎品を使用する



3 高齢者や身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく



4 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する



5 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく



6 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う

雪害対策

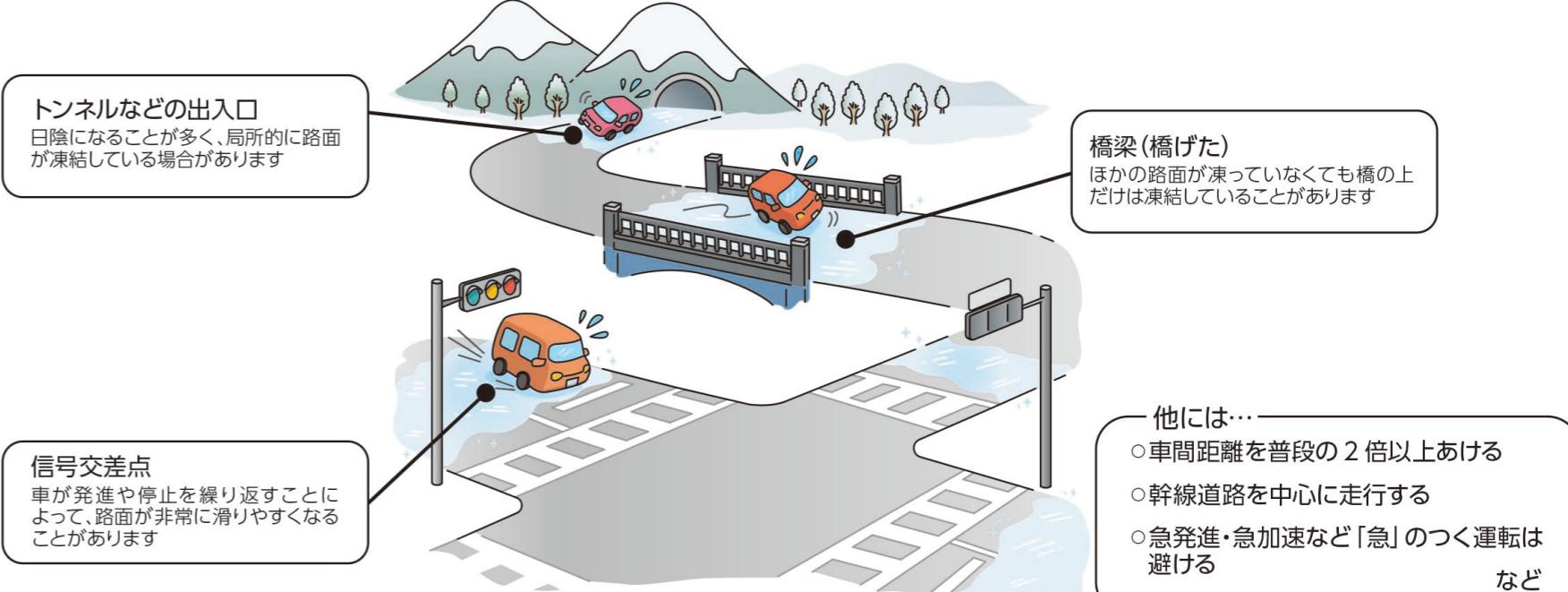
大雪災害

雪崩、除雪中の転落事故などの豪雪地帯特有の災害のほか、路面凍結などによる交通事故や歩行中の転倒事故など、豪雪地帯以外でも発生する災害もあります。雪害に遭わないためにも、雪に対する正しい知識を深めておくことが大切です。

車による雪道での注意点

降雪時、降雪後には路面の凍結や視程障害(吹雪などによる視界不良)による事故に注意が必要です。

こんなところでは路面の凍結に注意！



- 他には…
- 車間距離を普段の2倍以上あける
 - 幹線道路を中心に走行する
 - 急発進・急加速など「急」のつく運転は避ける
 - など

消防器の使い方

消防器は、火災の起きている場所の近くまでは片手または両手で搬送し、消火に安全な場所、概ね7、8メートルまで近づきます。そこで操作をしないと運んでいる間に誤射し、火災現場に到着したときには、放射し終わってしまうこともあります。消防器が重く、片手で運べない人は、両手で抱えるように搬送し、障害物にぶつけないよう気をつけながら運びます。

放射の際は、火の根元をねらって、手前からほうきで掃くように消防剤を放射して下さい。消防剤を効果的に放射するため、また、自分の身を守るために消防器は風上から放射します。室内においては、逃げ道を確保し、出入り口を背に放射します。放射時間や放射距離は、本体に必ず表示してありますので確認しておくとよいでしょう。

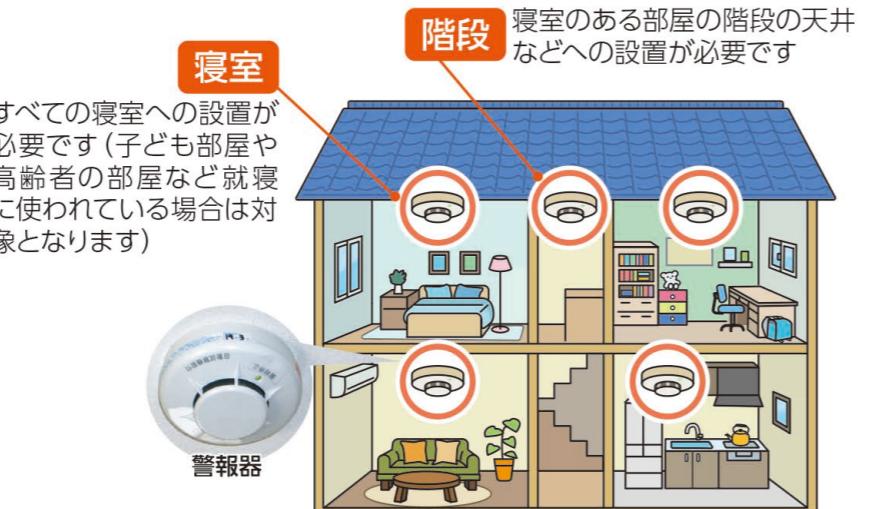


ホースは、先端を持ちましょう。ホースの途中を持つとホースの圧力などからねらいが定まりず、的確な場所に放射できないおそれがあります。



火災警報器の設置義務化

消防法に基づき、住宅用火災警報器の設置が義務づけられました。火災による死傷者をなくすためにも設置しましょう。



すべての寝室への設置が必要です(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)

階段などへの設置が必要です

除雪中の注意点

雪下ろしの事故の場合、屋根からの転落事故が多く、高齢者や1人での作業中に多く発生しています。油断や過信をすることなく、安全な対策を講じて事故を防ぎましょう。

事故防止のポイント



安全対策用具などの手入れや点検をしましょう
古くなり壊れないか定期的に点検し、使いやすくしておきましょう

安全な装備で行いましょう
安全帯やヘルメットなどを着用し、命綱はしっかりと固定しましょう

作業は2人以上で行いましょう
家族や隣近所にも声を掛けましょう

携帯電話を身につけましょう
緊急時に家族や緊急医療機関などにすぐに連絡を取れるようにしておきましょう

はしごは固定しましょう
ロープや器具を使用し、屋根に対して決められた角度でまっすぐ立てましょう

建物の周りに雪を残しましょう
落下した場所に積雪があることで、被害を軽減できる場合があります

歩行者の雪道での注意点

歩行時の転倒にも注意！滑りやすい場所を知りましょう

- 横断歩道の白線の上
乾いているように見えても薄い氷膜ができて、滑りやすくなっている場合があります。
- 車の出入りのある歩道(駐車場の出入口、ガソリンスタンドなど)
出入りする車のタイヤで路面上の氷が磨かれ、非常に滑りやすくなっている場合があります。
- バスやタクシーの乗り場
踏み固められて滑りやすくなっている場合があります。また、歩道と車道との段差にも注意しましょう。
- 坂道
上りよりも下る方が滑って転びやすくなる危険です。下るときは特に注意しましょう。
- ロードヒーティングの切れ目
雪や氷が融けておらず段差ができる、部分的に滑りやすい状態になっていることがあります。

大雪が降った場合

外出は控えましょう

大雪が予想される場合は、不要不急の外出は極力控えてください。



備蓄しましょう

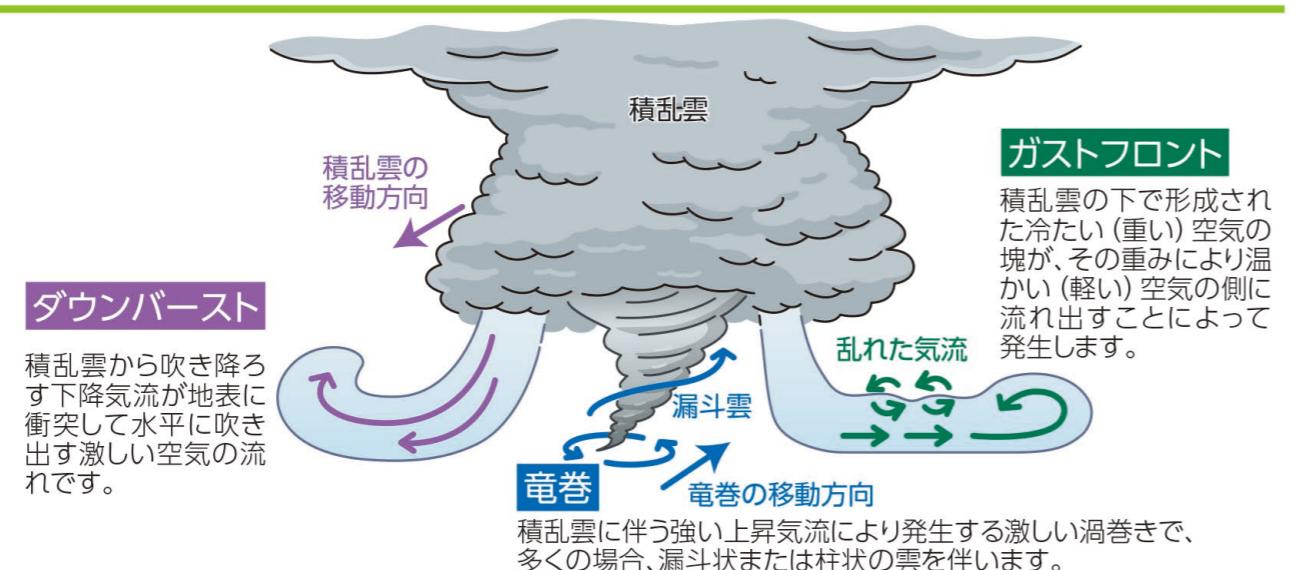
積雪により外出できなくなる場合に備え、水(1人1日3リットルが目安)、食料、灯油などの備蓄を確認しましょう。特別な非常食に限らず、普段から購入しているものを少し多く買い置きすることで十分です。(最低3日分・推奨7日分)



竜巻・雷対策

突風の種類

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバースト、ガストフロントといった、激しい突風をもたらす現象が発生します。

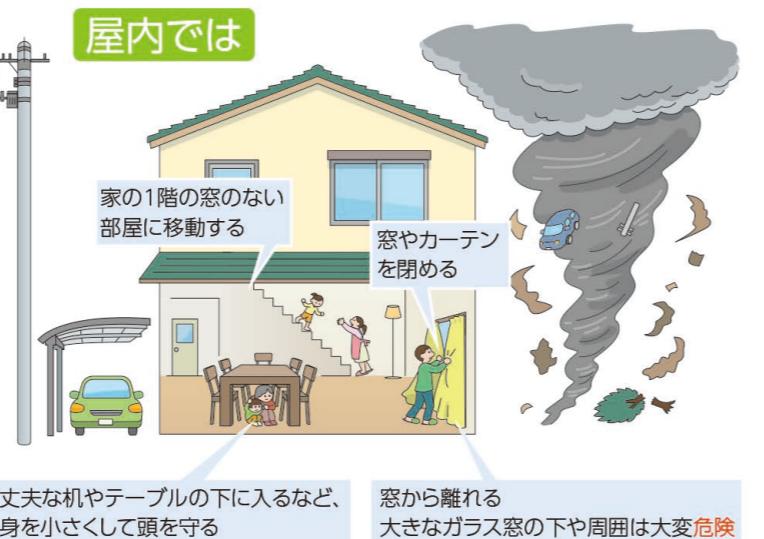


竜巻から身を守る行動

屋外では



屋内では



雷対策

雷は、大気中で大量の正負の電荷分離が起こり、放電する現象です。

雷から身を守るには…

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などとこを選びます。近くに高いものがあると、これを通って落ちる傾向があります。グラウンドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難してください。鉄筋コンクリート建築、自動車（オープンカーは不可）、バス、列車の内部は比較的安全な空間です。また、木造建築の内部も基本的に安全ですが、すべての電気器具、天井・壁から1m以上離れば更に安全です。

安全な空間に避難できない場合は…

近くに安全な空間がない場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ（保護範囲）に退避します。高い木の近くは危険ですから、最低でも木のすべての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。

雷の音が聞こえたらすでに危険な状態です！
安全な建物へ避難しましょう。



自宅にとどまった場合の備え

自宅での避難生活

過去の経験によれば、災害発生からライフライン復旧まで1週間以上を要するケースが多くみられます。また、災害支援物資が3日以上到着しないことや、物流機能の停止によって、1週間はスーパー・マーケットやコンビニなどで食品が手に入らないことが想定されます。このため、**最低3日分～1週間分×人数分の食品の家庭備蓄**が望ましいといわれています。



飲料水の備え 1人1日3リットルを目安に最低3日分、できれば7日分用意しておきましょう

必要な備蓄量を
計算してみましょう

3リットル ×

家族の人数

人 × 7日分 =

必要な量

リットル

食料の備え あなたの食生活別 選び方のヒント

- 普段料理をする → 常備菜・乾物がおすすめ：梅干し、缶詰、切り干し大根など
- 中食が多い → 必需品+推奨備蓄食品：レトルト食品、フリーズドライ食品など
- 普段料理をしない → 必需品+好きなもの：カップラーメン、菓子類、非常食など



トイレの備え 携帯トイレは1人1日5枚程度使うと想定して7日分ほど用意しておきましょう

必要な枚数を
計算してみましょう

5枚 ×

家族の人数

人 × 7日分 =

必要な枚数

枚

被害を抑えるための自衛策

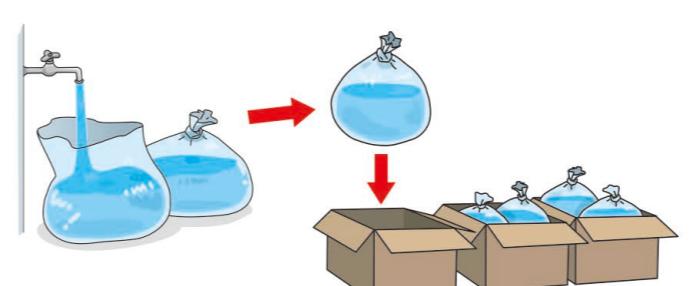
家のまわりを 点検・整備

梅雨や台風期の前には、家の周りの排水溝が詰まっていないかの確認や、風で吹き飛ばされる物の撤去等が必要です。

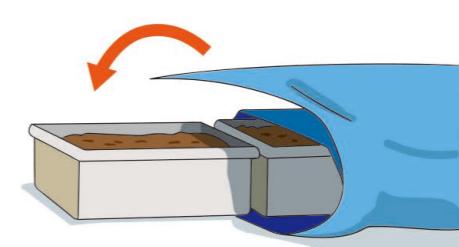
家庭でできる 簡易水防

浸水深が小さいときは、家庭にあるものを使って、水の侵入を減少させることができます。具体的な方法は、以下の通りです。

- 大きめのゴミ袋やポリタンク等に水を入れて、水の侵入口となるところに並べる



- プランターをつなげて水の侵入口となるところに並べる



- 長めの板と土のうで臨時の止水板を作る



災害の「備え」チェックリスト

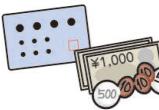
非常用持ち出し袋 避難の際に持ち出すもの

- 水
- 食品
(ご飯(アルファ米など)、レトルト食品、ビスケット、チョコ、乾パンなど;最低3日分の用意)
- 防災用ヘルメット・防災ズキン
- 衣類・下着
- レインウェア
- ひもなしのズック靴
- 懐中電灯(※手動充電式が便利)
- 携帯ラジオ(※手動充電式が便利)
- 予備電池・携帯充電器
- マッチ・ろうそく
- 救急用品
(ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など)
- 使い捨てカイロ
- ブランケット
- 車手
- 洗面用具
- 歯ブラシ・歯磨き粉
- タオル
- ペン・ノート



一緒に持ち出そう

- 貴重品
(通帳、現金、パスポート、運転免許証、病院の診察券、マイナンバーカードなど)



感染症対策にも有効です

- マスク
- 手指消毒用アルコール
- 石けん・ハンドソープ
- ウェットティッシュ
- 体温計



備蓄品 家に備えておくもの

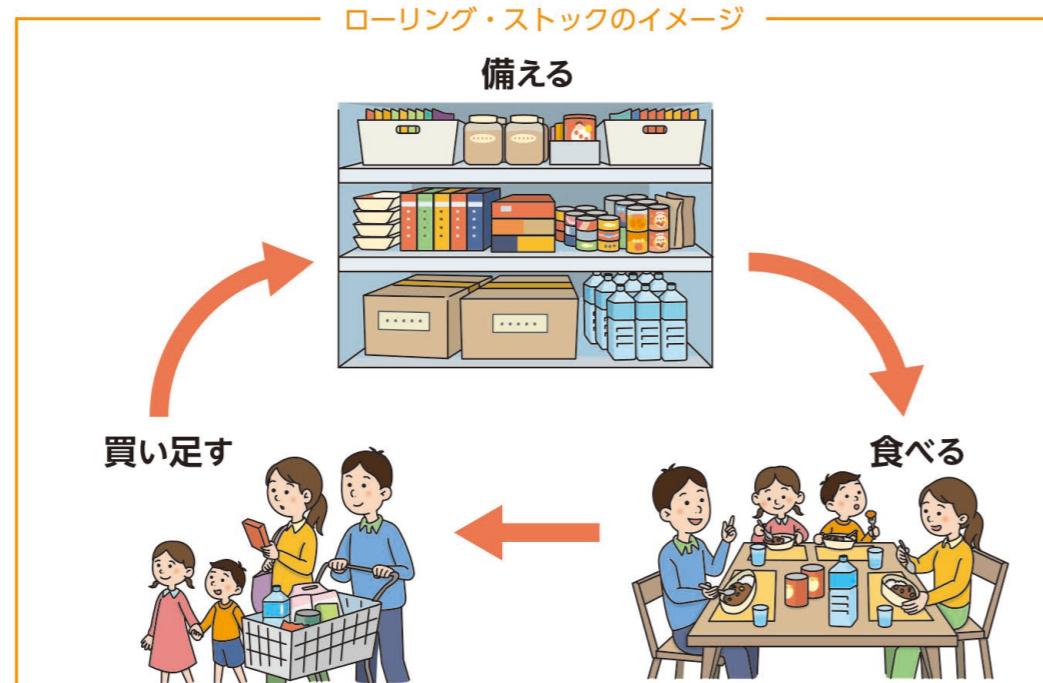
食料・飲料・生活必需品などの備蓄の例(人数分用意しましょう)

- 食料や水(最低3日分、できれば1週間分)×家族分
保存期間の長いものを多めに買っておき、消費したら補充するという習慣にしていれば、常に食料の備蓄が可能(ローリング・ストック)

- 飲料水
3日分(1人1日3リットルが目安)

- 非常食
3日分の食料として、ご飯(アルファ米など)、ビスケット、板チョコ、乾パンなど

- 生活用品
例えば、ティッシュ、トイレットペーパー、マッチ・ろうそく、カセットコンロ、ラップ、ごみ袋、ポリタンク、携帯用トイレなど



ほかにも、家庭で必要なものは日ごろから備えておきましょう。
電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から飲料水や保存の効く食料などを備蓄しておきましょう。
防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用されている食品等を揃えるようにしましょう。

ほかにも、家庭で必要なものは日ごろから備えておきましょう

過去の災害

令和元年10月台風19号

令和元年10月12日から13日にかけて台風19号が本町を襲いました。

この台風の影響により、県道足利千代田線が新福寺から赤岩までの区間に冠水のため通行止めとなり、新谷田川放水路・二ノ堰橋付近において溢水が起こりました。

台風における被害では、家屋被害では床上浸水2戸、床下浸水26戸の計28戸の被害が発生しました。

また、千代田町では初めて避難指示を発令するとともに避難所・避難場所を7カ所開設し、最大で776名の方が避難しました。

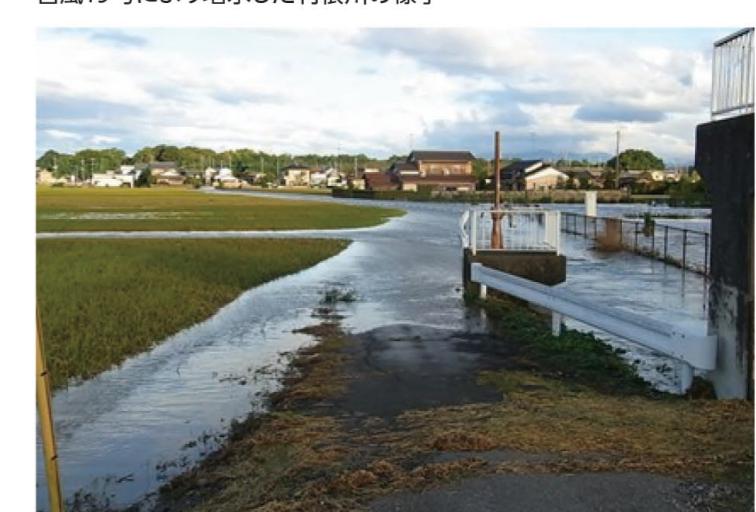


通常時の利根川の様子

写真提供 国土交通省利根川上流事務所



台風19号により増水した利根川の様子



溢水した新谷田川放水路・二ノ堰橋付近の様子

平成10年9月台風5号

平成10年9月15日夜半から16日昼過ぎにかけて台風5号が上陸しました。

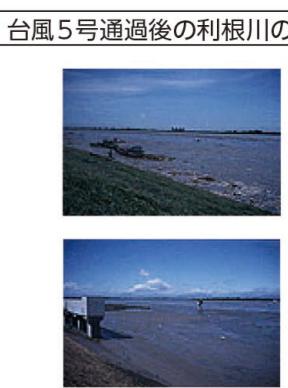
この台風は、各地で大きな被害をもたらしましたが、幸いながら千代田町は大きな被害には及びませんでした。普段千代田町を流れる利根川の水位は、1.6mくらいですが、このときは最高水位で6.4mを記録しました。



台風5号通過直後の利根大堰:
(午後1時頃)近年になく増水の状態だが、この後も増え続ける。



通常の利根川の様子



台風5号通過後の利根川の様子

明治43年の利根川大洪水

明治43年(1910年)8月、長雨が降り続き、ついに8月11日午前0時30分に富永村(千代田町は西部が旧の永楽村、東部が旧の富永村で昭和30年に合併)大字上五箇駒形地先、同2時に富永村、佐貫村(現在の明和町)入会地先の堤防が決壊し、未會有の大洪水を引き起きました。この洪水は、田畠や家屋を次々と濁流で飲み込んでいき、ついには死者14名、行方不明者28名、負傷者3名(資料により数が異なります)という大惨事となりました。

この惨事を記すものとして、千代田町大字上五箇の青年研修所跡(現在の消防団詰所)に昭和10年に富永村が建てた水害記念碑があります。

記念碑には、当時の惨状の様子が明確に刻み込まれています。この碑によりますと、洪水は「濁水魔の如く暴威を逞(たくま)しう、「田畠は概ね砂礫に埋もれ」てしまい、村民は「財を失うて、衣食に道なく前途暗澹(ぜんとあんたん)」として、酸鼻(さんび)を極め」たそうです。以上のように、当時は大変な状況であったことがうかがいれます。

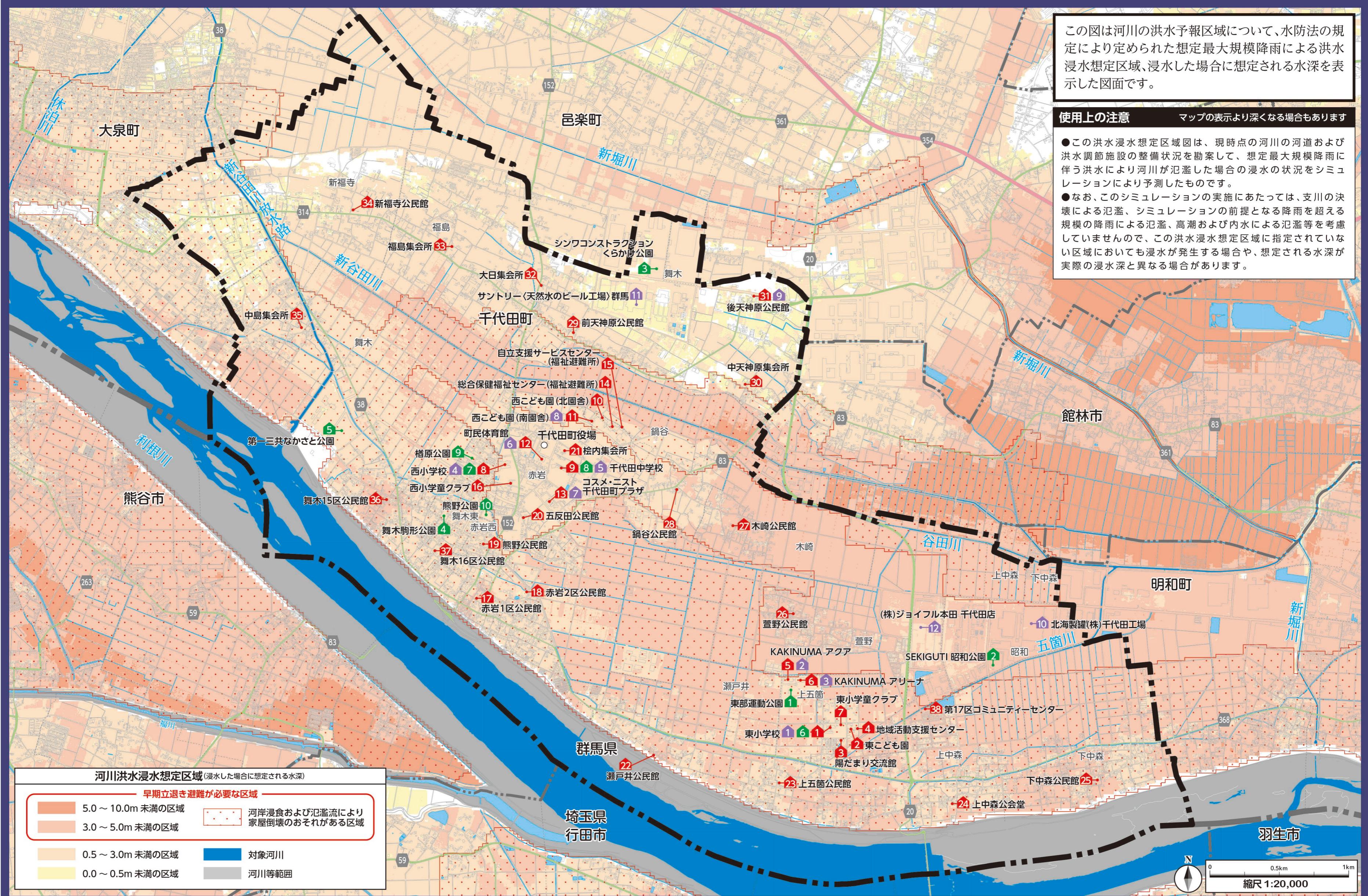


水害記念碑

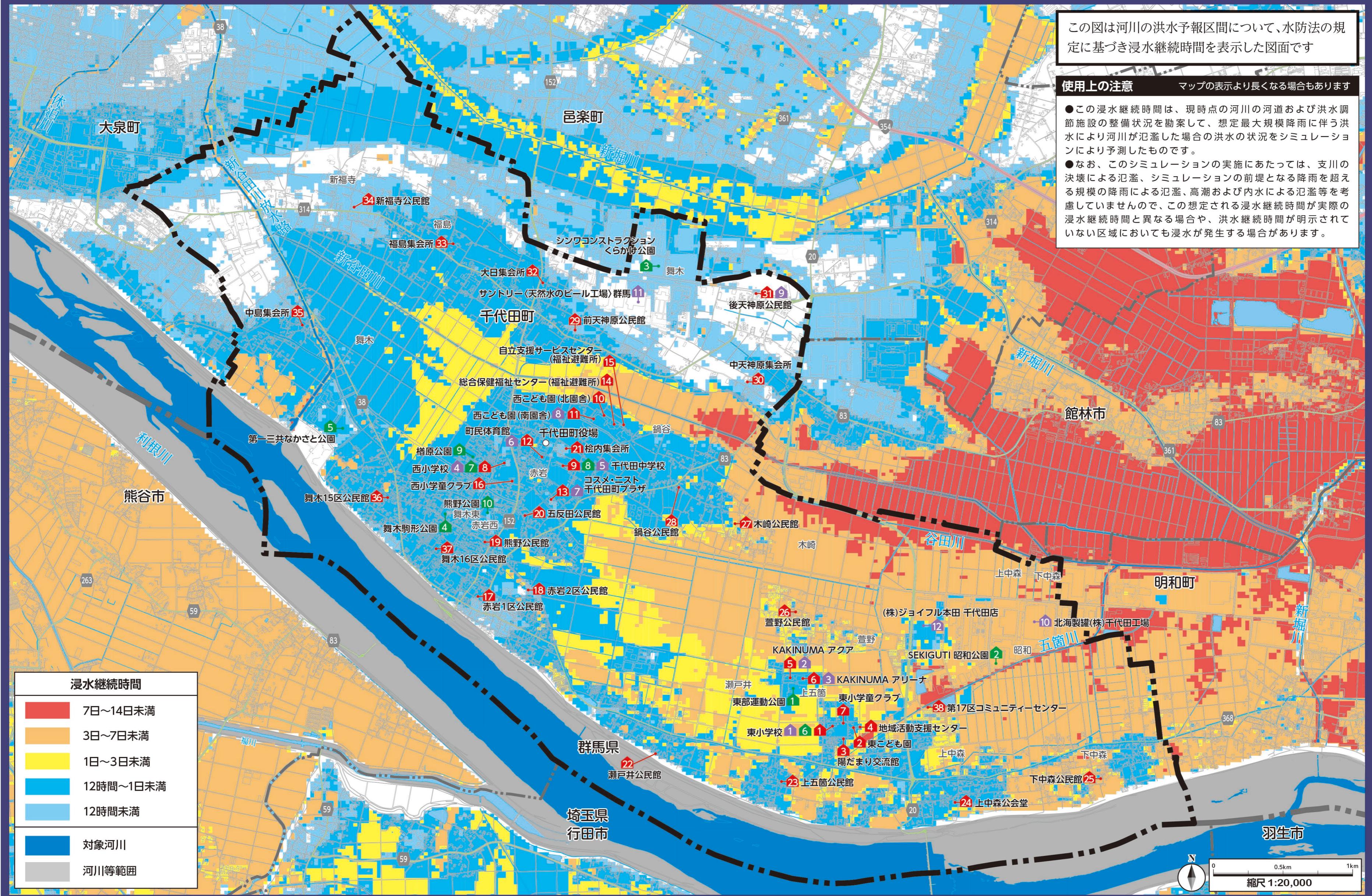


明治43年の大洪水

洪水浸水想定区域図【想定最大】

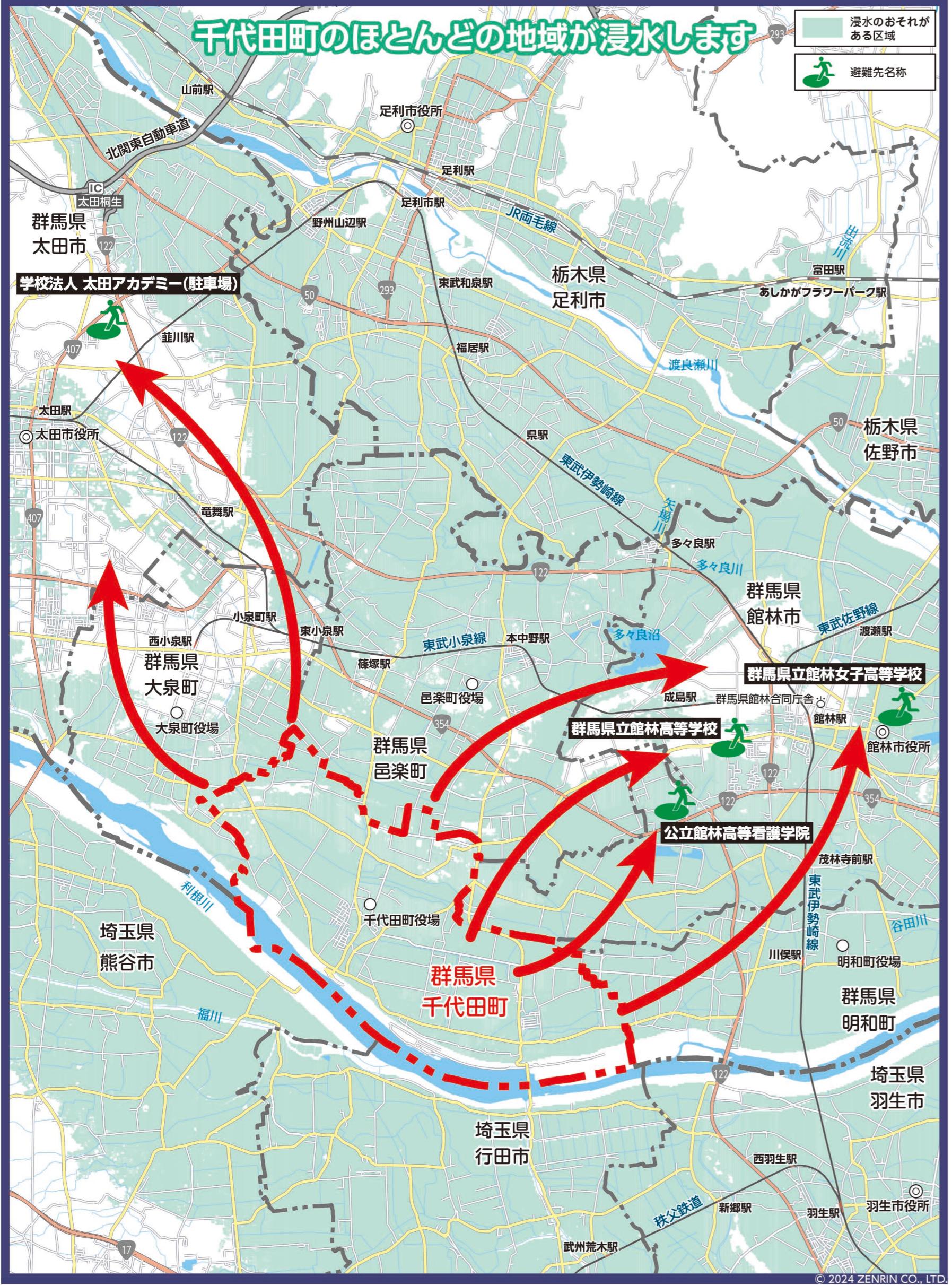


洪水浸水想定区域図【浸水継続時間】



広域避難地図

避難情報の発令のタイミングで避難をすると、橋や主要道路で大渋滞が発生する恐れがあります。早めに避難しましょう。



避難の方法

避難時の行動

小中学校や公民館に行くことだけが避難ではありません。「避難」とは「難」を「避」けることです。普段からどう行動するか決めておきましょう。

行政が指定した避難先への立退き避難

- 自ら携行するもの
- スリッパ
- マスク
- 消毒液 など



こんな格好で
避難しよう



安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。
※地図で安全かどうか確認しましょう。



安全なホテル・旅館への立退き避難

- 通常の宿泊料が必要です。
- 事前に予約・確認しましょう。

※地図で安全かどうか確認しましょう。



屋内安全確保

地図で以下の「3つの条件」を確認し
自宅にいても大丈夫かを検討することが大事です。

※土砂災害の危険がある区域では立退き
避難が原則です。



この「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅にとどまり安全を確保することも可能です

- ① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
(入っていると・・・)



水の流れが速いと、
木造家屋は倒壊する
おそれがあります

地面が削られると家
屋は建物ごと崩落す
るおそれがあります

- ② 浸水深より居室は高い



- ③ 水が引くまで我慢でき、水・食料などの備えが十分
(十分じゃないと・・・)

水、食料、薬などの確保が困難になるほか、
電気、ガス、水道、トイレなどの使用
ができなくなるおそれがあります



避難所一覧

災害時指定避難所

番号	施設名	所在地	電話番号(0276)	地図
1	東小学校	上五箇316-1	86-3225	6 - F - 2
2	東こども園	上五箇522-1	86-3226	6 - F - 2
3	陽だまり交流館	上五箇319-2	86-5730	6 - F - 2
4	地域活動支援センター	上五箇526	55-3075	6 - F - 2
5	KAKINUMA アクア	上五箇600-2	86-3012	6 - E - 1
6	KAKINUMA アリーナ	上五箇600-1	86-8810	6 - E - 1
7	東小学童クラブ	上五箇316-2	86-6502	6 - F - 2
8	西小学校	赤岩1755	86-3204	4 - B - 2
9	千代田中学校	赤岩1920	86-3222	4 - B - 2
10	西こども園(北園舎)	赤岩2119-6	86-4154	4 - C - 1
11	西こども園(南園舎)	鍋谷367-9	86-4154	4 - C - 1
12	町民体育館	赤岩1895-3	86-5087	4 - B - 2
13	コスメ・ニスト千代田町プラザ	赤岩1701-1	86-6311	4 - B - 2
14	総合保健福祉センター(福祉避難所)	赤岩2119-5	86-7000	4 - C - 1
15	自立支援サービスセンター(福祉避難所)	赤岩2119-5	86-8880	4 - C - 1
16	西小学童クラブ	赤岩1755	86-3685	4 - B - 2
17	赤岩1区公民館	赤岩206-1	—	4 - A - 4
18	赤岩2区公民館	赤岩乙1037	—	4 - B - 4
19	熊野公民館	赤岩西9-6	—	4 - A - 3
20	五反田公民館	赤岩1150-4	—	4 - B - 2
21	桧内集会所	赤岩1926-11	—	4 - B - 2
22	瀬戸井公民館	瀬戸井105-1	—	6 - C - 2
23	上五箇公民館	上五箇766-2	—	6 - E - 2
24	上中森公会堂	上中森1137-1	—	7 - A - 3
25	下中森公民館	下中森72-1	—	7 - C - 2
26	萱野公民館	萱野1195-1	—	4 - E - 4
27	木崎公民館	木崎534-2	—	4 - D - 3
28	鍋谷公民館	鍋谷137-1	—	4 - D - 2
29	前天神原公民館	赤岩2471-2	—	2 - B - 4
30	中天神原集会所	赤岩2946-1	—	2 - E - 4
31	後天神原公民館	赤岩3090	—	2 - E - 3
32	大日集会所	赤岩2516-7	—	2 - B - 3
33	福島集会所	福島579-1	—	2 - A - 3
34	新福寺公民館	新福寺526-1	—	1 - E - 2
35	中島集会所	舞木968-2	—	1 - E - 4
36	舞木15区公民館	舞木301-1	—	3 - F - 2
37	舞木16区公民館	舞木94-3	—	4 - A - 3
38	第17区コミュニティーセンター	上中森1390-5	—	7 - A - 1

避難所一覧

大地震発生時における指定緊急避難場所

番号	施設名	所在地	地図
1	東部運動公園	上五箇 600-1	6 - E - 1
2	SEKIGUTI 昭和公園	昭和4	5 - B - 4
3	シンワコンストラクションくらかけ公園	赤岩 2714	2 - C - 3
4	舞木駒形公園	舞木東 28	4 - A - 2
5	第一三共なかさと公園	舞木 470-17	3 - E - 1
6	東小学校	上五箇 316-1	6 - F - 2
7	西小学校	赤岩 1755	4 - B - 2
8	千代田中学校	赤岩 1920	4 - B - 2
9	楓原公園	舞木東 14	4 - A - 2
10	熊野公園	舞木東 37-1	4 - A - 2

洪水発生時における指定緊急避難場所

番号	施設名	所在地	電話番号(0276)	地図
1	東小学校	上五箇 316-1	86-3225	6 - F - 2
2	KAKINUMA アクア	上五箇 600-2	86-3012	6 - E - 1
3	KAKINUMA アリーナ	上五箇 600-1	86-8810	6 - E - 1
4	西小学校	赤岩 1755	86-3204	4 - B - 2
5	千代田中学校	赤岩 1920	86-3222	4 - B - 2
6	町民体育館	赤岩 1895-3	86-5087	4 - B - 2
7	コスメ・ニスト千代田町プラザ	赤岩 1701-1	86-6311	4 - B - 2
8	西こども園(南園舎)	鍋谷 367-9	86-4154	4 - C - 1
9	後天神原公民館	赤岩 3090	—	2 - E - 3
10	北海製罐(株)千代田工場	昭和 5-1	86-5755(代)	5 - B - 4
11	サントリー〈天然水のビール工場〉群馬	赤岩 2712	86-5211(代)	2 - C - 3
12	(株)ジョイフル本田 千代田店	萱野 813-1	55-0700	5 - A - 4
13	学校法人 太田アカデミー(駐車場)	太田市東長岡町 1361	25-2424	—

要配慮者利用施設(社会福祉施設)

番号	施設名	所在地	電話番号(0276)	地図
1	総合保健福祉センター(福祉避難所)	赤岩 2119-5	86-7000	4 - C - 1
2	自立支援サービスセンター(福祉避難所)	赤岩 2119-5	86-8880	4 - C - 1
3	児童センター(総合保健福祉センター内)	赤岩 2119-5	86-5411	4 - C - 1
4	陽だまり交流館	上五箇 319-2	86-5730	6 - F - 2
5	西小学童クラブ	赤岩 1755	86-3685	4 - B - 2
6	東小学童クラブ	上五箇 316-2	86-6502	6 - F - 2
7	特別養護老人ホーム ちよだ COM ハウス	赤岩 2114-2	86-6771	4 - C - 1
8	あんしんケア	赤岩 975	86-8250	4 - B - 3
9	特別養護老人ホーム みどりの風	瀬戸井 386	86-5011	6 - D - 2
10	あすかデイサービスセンター千代田	上中森 1220	86-3625	7 - B - 2
11	ハートフルふきあげ ちよだ事業所	上五箇 422-2	55-3016	7 - A - 2
12	グループホーム虹	上五箇 135-2	55-3016	6 - F - 2

要配慮者利用施設(学校・認定こども園)

番号	施設名	所在地	電話番号(0276)	地図
1	西こども園(北園舎)	赤岩 2119-6	86-4154	4 - C - 1
2	西こども園(南園舎)	鍋谷 367-9	86-4154	4 - C - 1
3	東こども園	上五箇 522-1	86-3226	6 - F - 2
4	西小学校	赤岩 1755	86-3204	4 - B - 2
5	東小学校	上五箇 316-1	86-3225	6 - F - 2
6	千代田中学校	赤岩 1920	86-3222	4 - B - 2

要配慮者利用施設(医療施設)

番号	施設名	所在地	電話番号(0276)	地図
1	小西医院	赤岩西 4-5	86-2261	4 - A - 3
2	千代田医院	赤岩 1773-1	86-6080	4 - B - 2

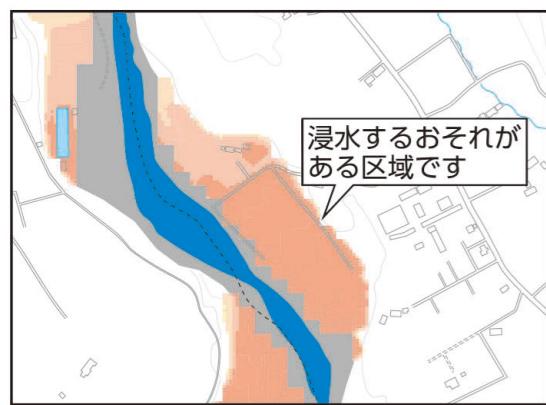
ハザード情報について

洪水浸水想定区域について（想定最大規模）

- 洪水浸水想定区域図は、河川の水位周知区間について、水防法の規定により定められた想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示しています。
- この洪水浸水想定区域図は、現時点の河川の河道の整備状況を勘案して、想定最大規模降雨に伴う洪水により河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したもので
- このシミュレーションの実施にあたっては、支川の決壊による氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮および内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

ハザードマップの見方

水害



家屋倒壊



家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸浸食)

家屋の倒壊をもたらすような氾濫流や河岸浸食が発生するおそれがある堤防沿いの地域は、早めの立退き避難が必要です。

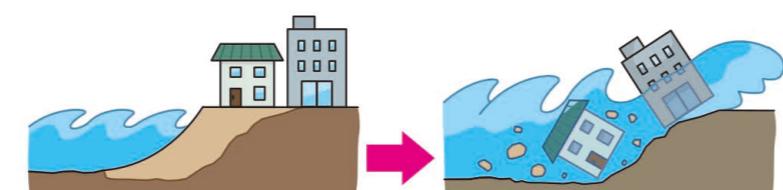
これらの区域では確実に早めに立退き避難をしてください

氾濫流



堤防の決壊や氾濫流により木造家屋の倒壊のおそれがあります。

河岸浸食



河岸が削られて家屋が崩落するおそれがあります。

全体索引図



© 2024 ZENRIN CO., LTD.

避難所について

避難所では、限られた空間の中で、たくさんの方々が生活をします。ルールを守り、住民が主体的に避難所運営に関わり、良好な環境を保ちましょう。

避難所と避難場所の違い

避難所
避難所は、災害の危険性があり避難した住民などが災害の危険性がなくなるまで必要期間滞在すること、または災害によって自宅に戻れなくなった住民などが一時的に滞在することを目的とした施設です。

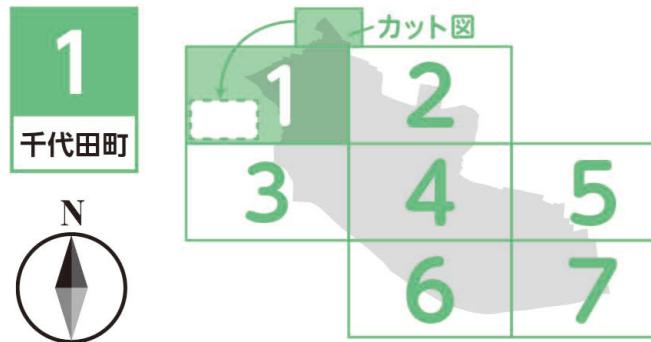
例:学校・体育館・公民館などの公共施設



避難場所
避難場所は、災害から命を守るために緊急的に避難する場所です。

例:災害に対し、安全な構造である堅牢な建築物、災害の危険がない学校のグラウンド・駐車場・大規模な公園など





河川洪水浸水想定区域(浸水した場合に想定される水深)

早期立退き避難が必要な区域

- ~ 10.0m 未満の区域
- ~ 5.0m 未満の区域
- ~ 3.0m 未満の区域
- ~ 0.5m 未満の区域

河岸浸食および氾濫流により
家屋倒壊のおそれがある区域

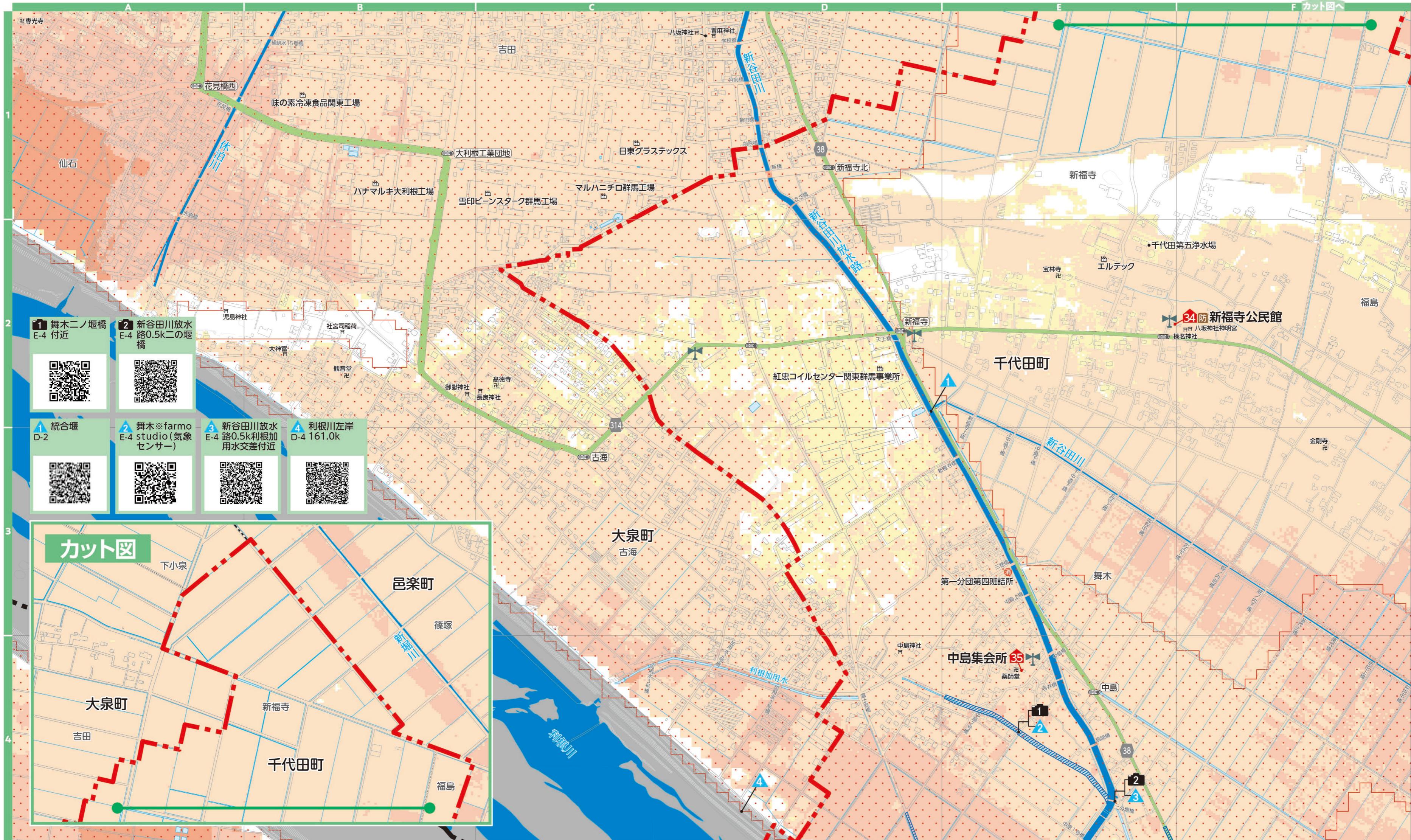
対象河川

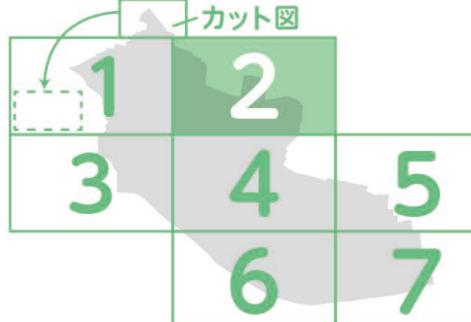
河川等範囲

凡 例									
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	災害時指定避難所		要配慮者利用施設 (社会福祉施設)		防災行政無線		消防署		神社
	大地震発生時における 指定緊急避難場所		要配慮者利用施設 (学校・認定こども園)		防災倉庫		郵便局		寺院
	洪水発生時における 指定緊急避難場所		要配慮者利用施設 (医療施設)		水位観測所		国道		
	過去の道路冠水		消防団詰所		町役場		県道・主要地方道		
	ヘリポート予定地		河川カメラ		駐在所		大規模工場		

最大被害 想定区域 詳細図

縮尺 1:7,000



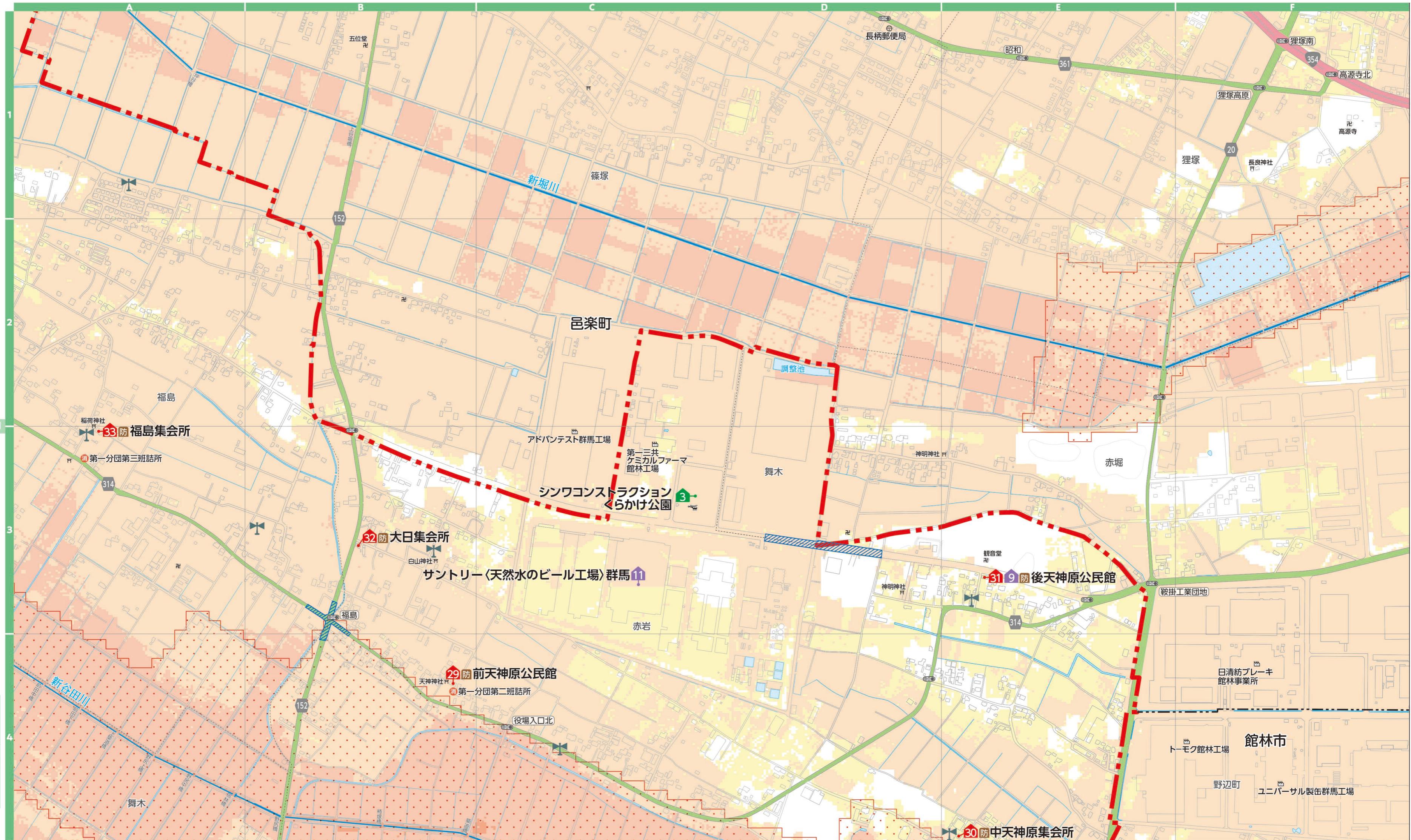


河川洪水浸水想定区域(浸水した場合に想定される水深)	
早期立退き避難が必要な区域	
5.0 ~ 10.0m 未満の区域	河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域
3.0 ~ 5.0m 未満の区域	
0.5 ~ 3.0m 未満の区域	対象河川
0.0 ~ 0.5m 未満の区域	河川等範囲

凡 例	
地図記号	表示項目
00	災害時指定避難所
00	大地震発生時における指定緊急避難場所
00	洪水発生時における指定緊急避難場所
■	過去の道路冠水
ヘリポート予定地	表示項目
1	要配慮者利用施設(社会福祉施設)
1	要配慮者利用施設(学校・認定こども園)
1	要配慮者利用施設(医療施設)
消	消防団詰所
1	水位観測所
1	河川カメラ
防	防災行政無線
防	防災倉庫
○	消防署
○	郵便局
○	国道
○	町役場
○	県道・主要地方道
○	駐在所
■	大規模工場

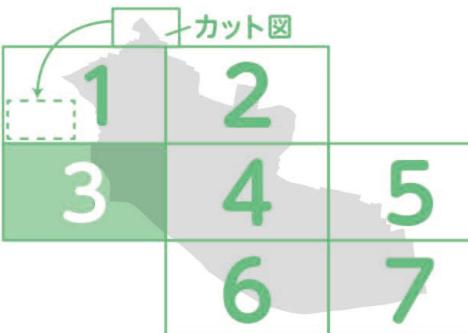
**最大被害
想定区域
詳細図**

0 250m
縮尺 1:7,000



3

千代田町

**河川洪水浸水想定区域(浸水した場合に想定される水深)**

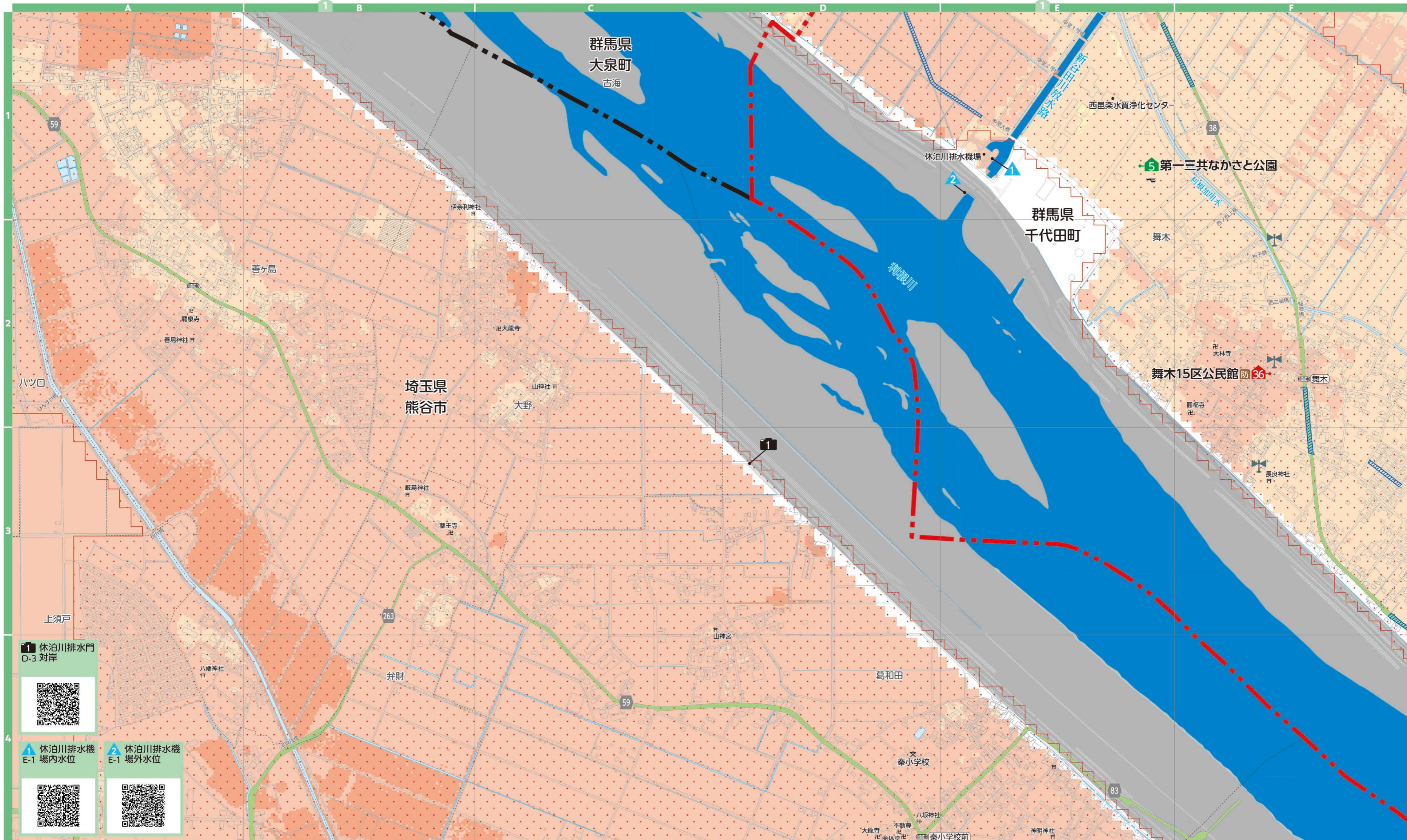
- 早期立退き避難が必要な区域
 - 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
 - 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域
- 対象河川
- 河川等範囲

凡 例

地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
00	災害時指定避難所	1	要配慮者利用施設 (社会福祉施設)	T	防災行政無線	Y	消防署	丶	神社
00	大地震発生時における 指定緊急避難場所	1	要配慮者利用施設 (学校・認定こども園)	防	防災倉庫	○	郵便局	丶	寺院
00	洪水発生時における 指定緊急避難場所	1	要配慮者利用施設 (医療施設)	A	水位観測所	145	国道		
	過去の道路冠水	消	消防団詰所	○	町役場	375	県道・主要地方道		
	ヘリポート予定地	1	河川カメラ	⊗	駐在所			■	大規模工場

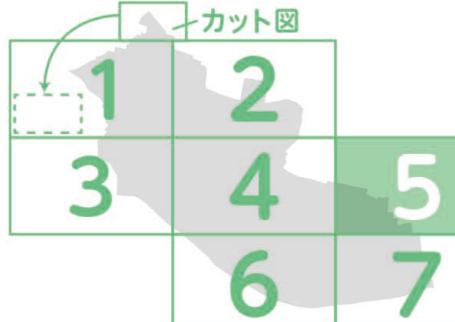
**最大被害
想定区域
詳細図**

0
250m
縮尺 1:7,000



5

千代田町

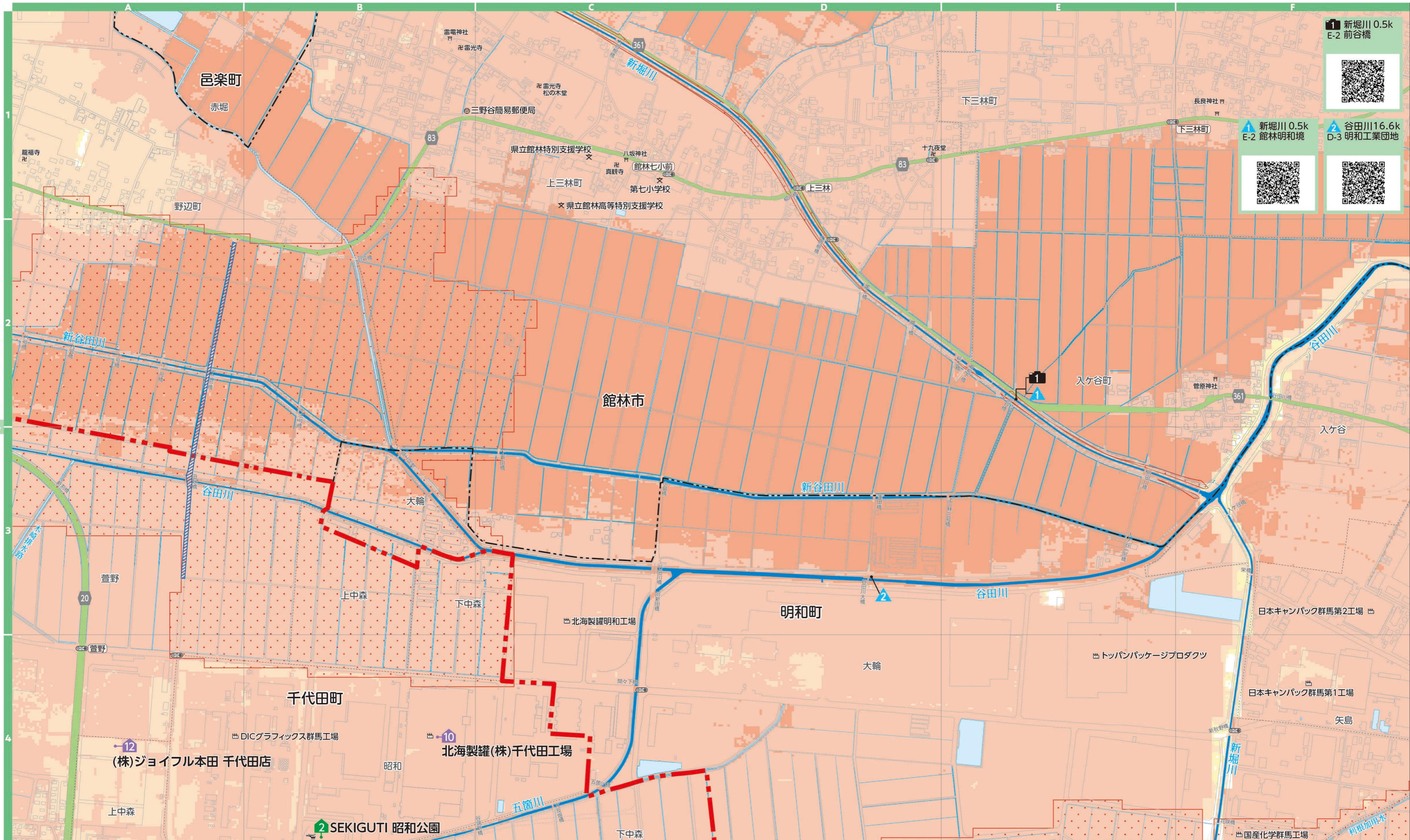


河川洪水浸水想定区域(浸水した場合に想定される水深)	
早期立退き避難が必要な区域	
5.0 ~ 10.0m 未満の区域	河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域
3.0 ~ 5.0m 未満の区域	
0.5 ~ 3.0m 未満の区域	対象河川
0.0 ~ 0.5m 未満の区域	河川等範囲

凡 例	
地図記号	表示項目
00	災害時指定避難所
00	大地震発生時における指定緊急避難場所
00	洪水発生時における指定緊急避難場所
■	過去の道路冠水
ヘリポート予定地	表示項目
1	要配慮者利用施設(社会福祉施設)
1	要配慮者利用施設(学校・認定こども園)
1	要配慮者利用施設(医療施設)
消	消防団詰所
1	河川カメラ
△	防災行政無線
防	防災倉庫
145	郵便局
145	国道
375	県道・主要地方道
×	町役場
■	大規模工場
■	神社
△	寺院
145	大規工場

**最大被害
想定区域
詳細図**

0 250m
縮尺 1:7,000



6

千代田町



河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合に想定される水深)

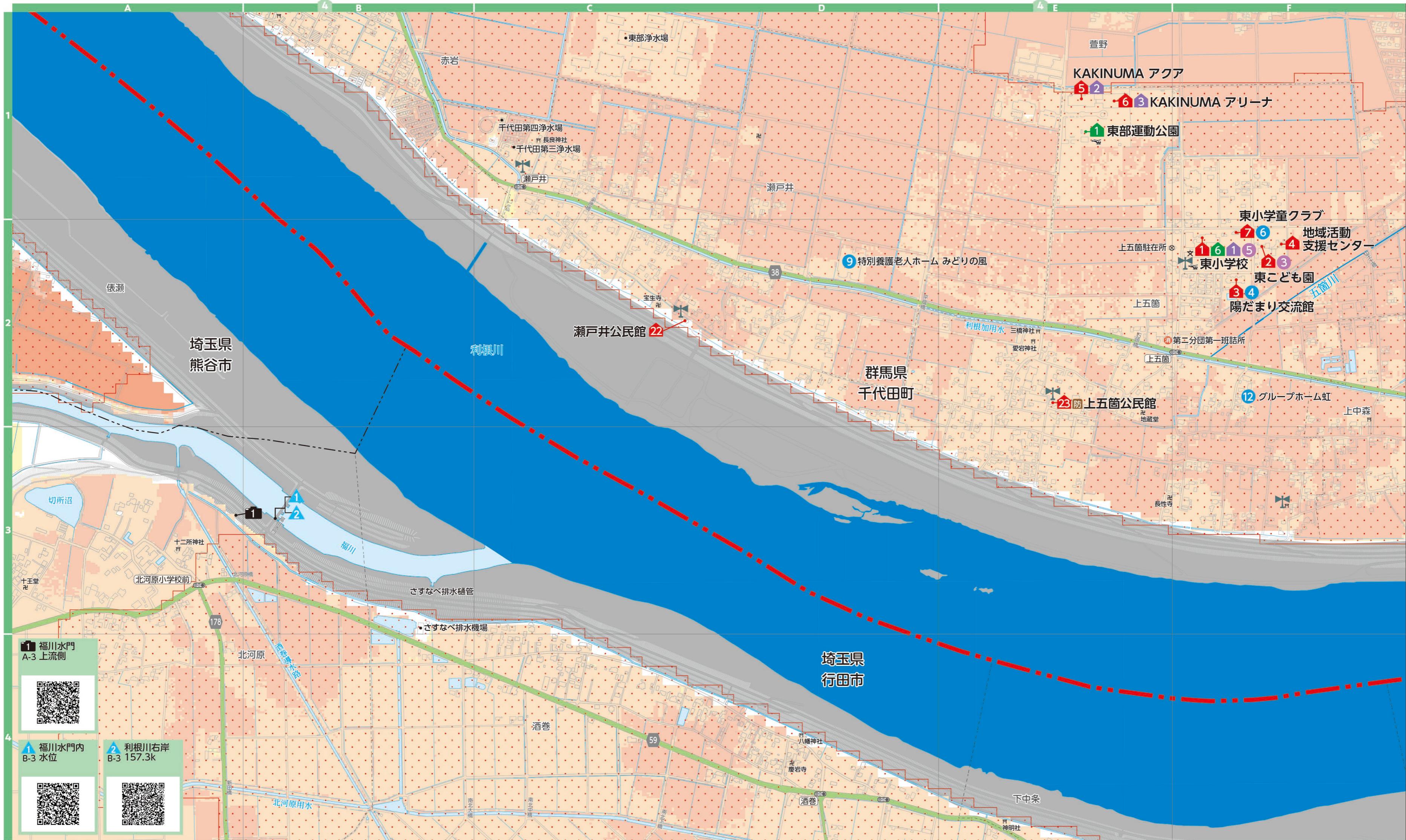
早期立退き避難が必要な区域

浸水深度	対象区域
5.0 ~ 10.0m 未満の区域	河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域
3.0 ~ 5.0m 未満の区域	
0.5 ~ 3.0m 未満の区域	対象河川
0.0 ~ 0.5m 未満の区域	河川等範囲

凡 例									
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	災害時指定避難所		要配慮者利用施設 (社会福祉施設)		防災行政無線		消防署		神社
	大地震発生時における 指定緊急避難場所		要配慮者利用施設 (学校・認定こども園)		防災倉庫		郵便局		寺院
	洪水発生時における 指定緊急避難場所		要配慮者利用施設 (医療施設)		水位観測所		国道		
	過去の道路冠水		消防団詰所		町役場		県道・主要地方道		
	ヘリポート予定地		河川カメラ		駐在所		大規模工場		

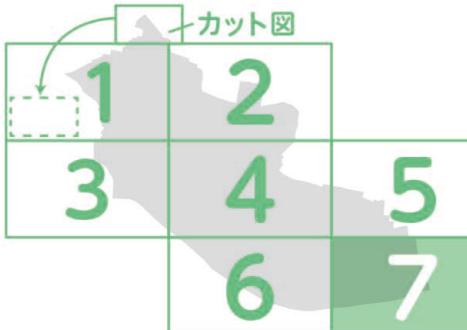
最大被害 想定区域 詳細図

A horizontal scale bar with tick marks every 50 units. The left end is labeled '0' and the right end is labeled '250m'. Below the bar, the text '縮尺 1:7,000' is written.



7

千代田町

**河川洪水浸水想定区域(浸水した場合に想定される水深)**

- 早期立退き避難が必要な区域**
- 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
 - 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
 - 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
 - 0.0 ~ 0.5m 未満の区域
- 対象河川**
- 河川等範囲**

凡 例

地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
○○	災害時指定避難所	1	要配慮者利用施設 (社会福祉施設)	△	防災行政無線	Y	消防署	□	神社
○○	大地震発生時における 指定緊急避難場所	1	要配慮者利用施設 (学校・認定こども園)	防	防災倉庫	○	郵便局	△	寺院
○○	洪水発生時における 指定緊急避難場所	1	要配慮者利用施設 (医療施設)	▲	水位観測所	145	国道		
△△	過去の道路冠水	消	消防団詰所	○	町役場	375	県道・主要地方道		
△△	ヘリポート予定地	1	河川カメラ	⊗	駐在所			■	大規模工場

**最大被害
想定区域
詳細図**

0
250m
縮尺 1:7,000

